

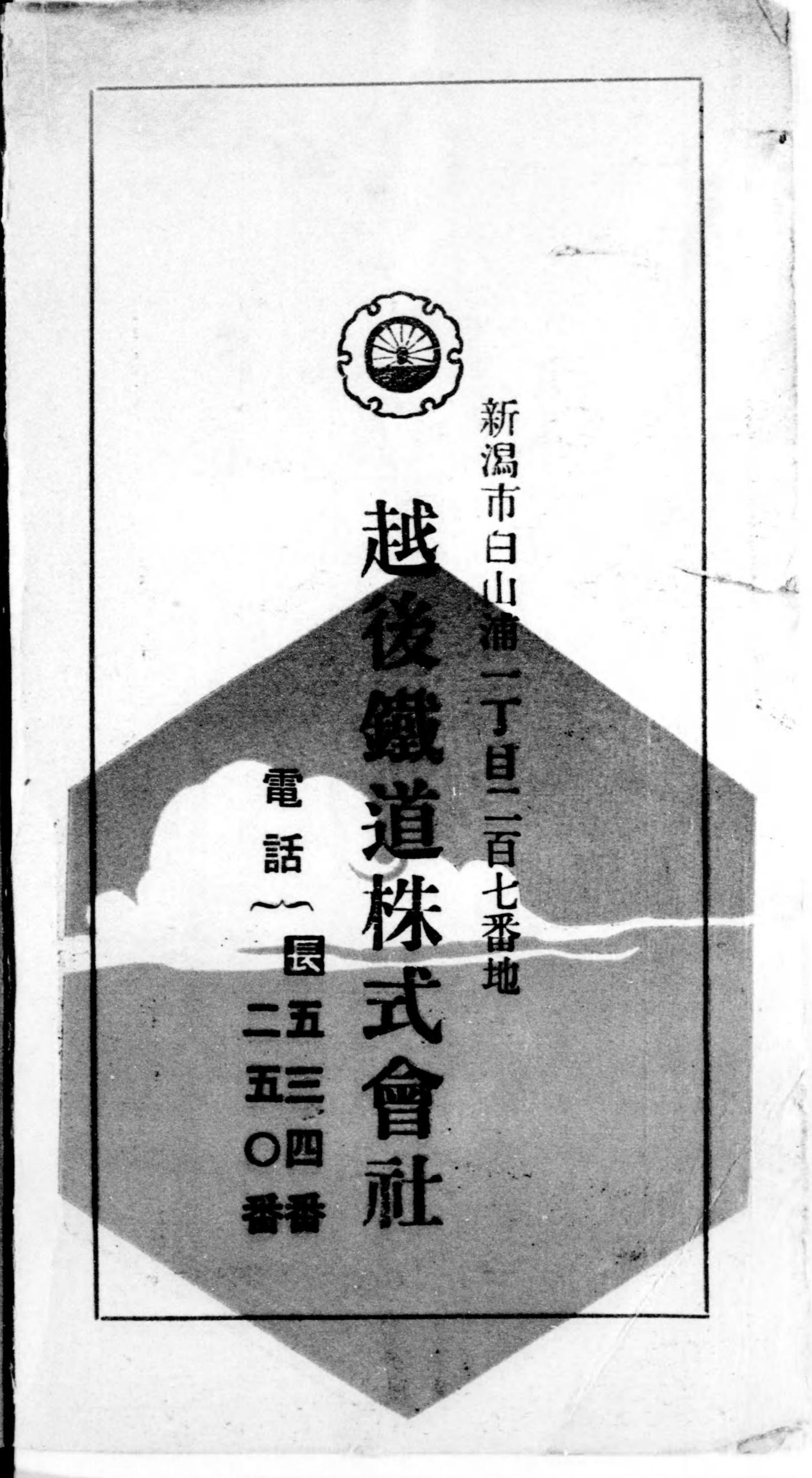
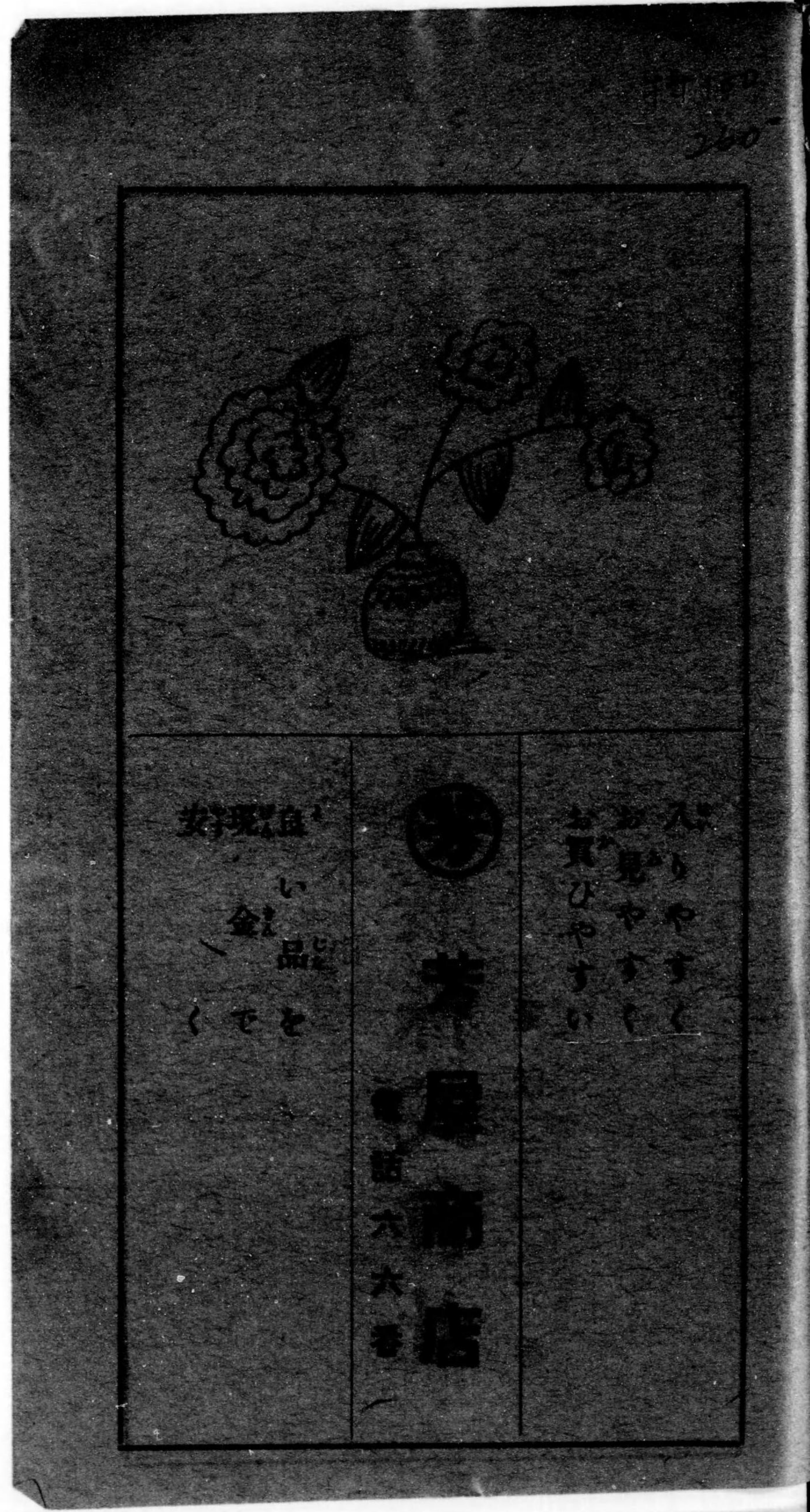


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 $\frac{18}{70}$ 1 2 3 4 5

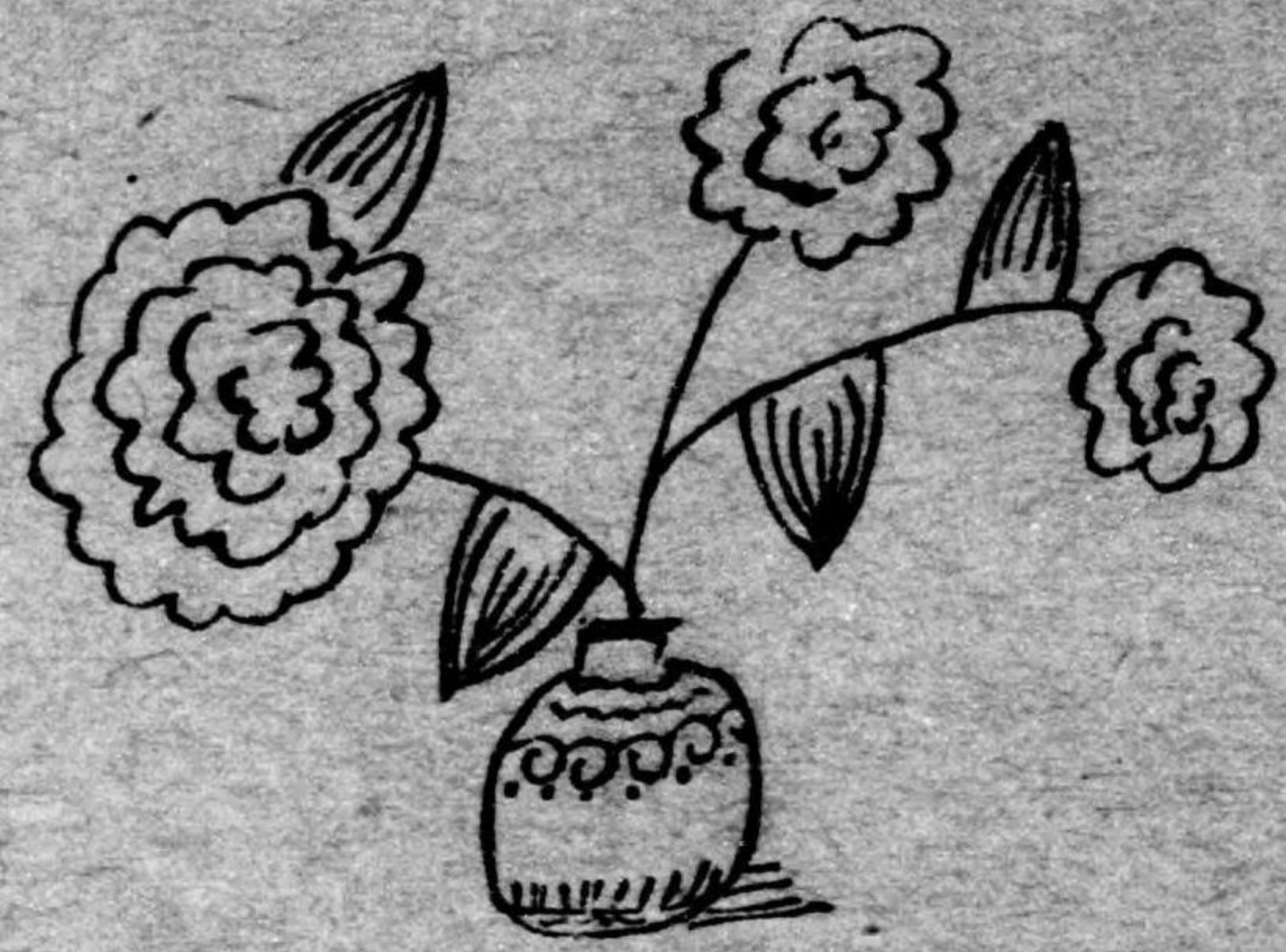
特

始





特150
260



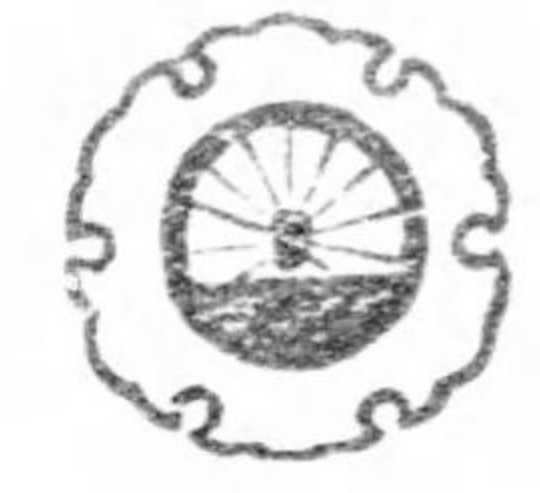
良^よい^い品^{しな}を
現^{げん}金^{きん}で
安^{やす}く



芳屋商店

電話 六六番

入^{はい}りやす^く
お見^みやす^く
お買^かひやす^い



新潟市白山浦一丁目二百七番地

越後鐵道株式會社

電話 二五三〇番
長 四五三四番

新潟市並木町

新潟硫酸株式會社

電話三一一番

●大坂會社密

三三河セメ

日之出印

コークス

セメント

便利瓦



株式會社

榎並銅鐵商店

新潟市(時長)四七〇番
電話一四七〇番

東京出張所

日本橋區大傳馬鹽町三番地
電話神田長六五九番

營業
海陸運送業
耐火煉瓦
赤煉瓦
目録
モルタル

新潟市並木町



合名
會社

荒川本店

電話 六五五番

運送部 沼垂駅前電話二五四番
出張所 新潟駅前電話六五四番
關屋駅前電話一七二番

各製紙會社特約販賣
各國産紙特約販賣
キリンビール一手販賣元

新潟市本町通八番町

和洋紙
問屋

三田村紙店

電話 二四七番
振替口座東京一七〇九二番

和諸洋雜

洋罐菓

酒詰子貨

商



ハナヤ食料品店

高橋春三商店

新潟市古町通九番町
電話一四三六番
電略(夕力)又(ハナヤ)



株式會社

新潟銀行

新潟市上大川前通八番町

御料理

行形亭

電話 長

九一七〇番

御料理

鍋茶屋

電話

長 長
一六五
五五五
六〇番

銃砲藥商
新潟商會

貸自動車
新潟自動車商會

新潟市礎町通二之丁
電話 一二九八番

全國紙業博覽會ニ於テ

銀●牌●受●領●

しぐれ
やあぎ
抄造元 新潟製紙株式會社

新潟市關屋
電話 一一五六番

西洋料理 伊タリア軒

新潟市西堀通七番町
電話 長二七〇番二七二番

……
土曜日曜の家族デーには午後七時より活動寫眞
を映し升から御家族御同伴御遊びに御出下さい
……



活動寫真常設

之びら館

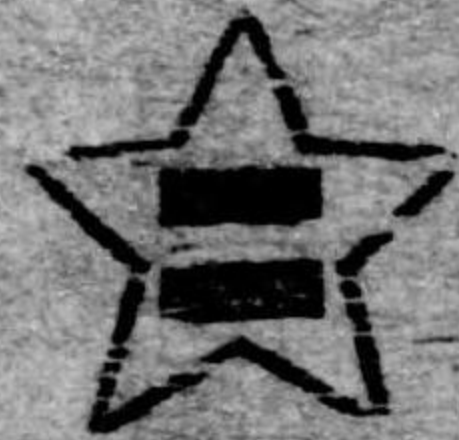
新潟市西區嶋町

電話一〇〇番

日本活動寫真株式會社特約

松竹キネマ特約

活動寫真常設



新瀉館

新潟市横七番町

電話六七番

山屋 花屋

新潟市の

吳服 六本 洋傘 七〇四電

土木請負業

金卷

長作

電話八八五番

營業科目
 清菊正宗及白鶴
 酒料罐詰
 各種ミル
 各種清涼飲料
 中川製金庫

大日本株式會社特約店

紙商  富岡彌八郎

新潟市上大川前通十番町
 電話 四九十九番
 振替東京二二二七番

新潟市寄居町榎谷小路(圖書館)上角

毛利洋服店
 電話 一九七八番

新潟市下大川前通五ノ丁

新潟汽船株式會社

電話 長 二〇〇九番

露光量違いの為重複撮影

内外果實
青物バナナ
委托問屋



阿部治七商店

新潟市上大川前通六番町

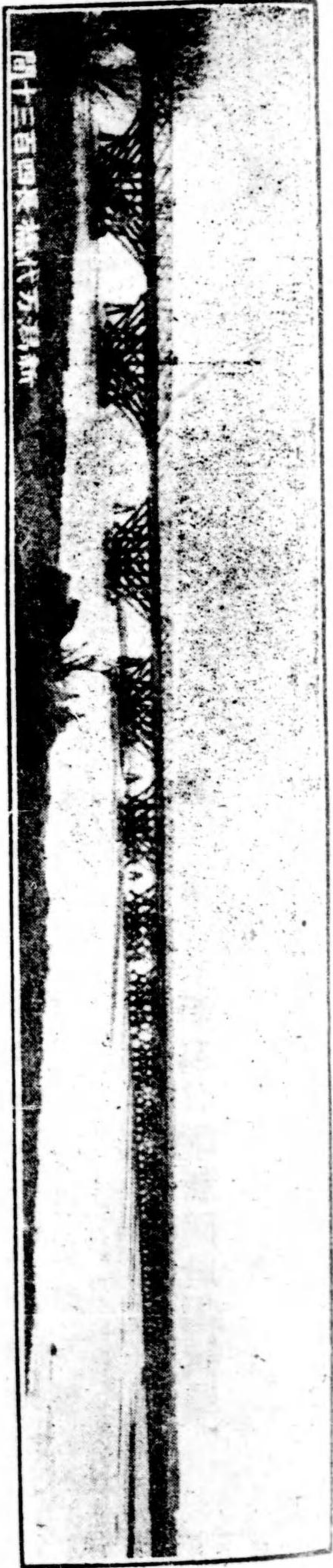
電話一四七二番
電略(〇ア)又ハ(ア)

内外果實
食糧罐詰
乾物問屋

甲州勝沼葡萄指定問屋
金星印ミルク特約販賣

高島文治商店

新潟市上大川前通六番町
電話九八九八番
電略(マタ)又ハ(マ)



景全之橋代萬



(む望を下ノ山岸對及口港りよ山和日)部一の街市

内外果實
青物バナナ
委託問屋



阿部治七商店

新潟市上大川前通六番町

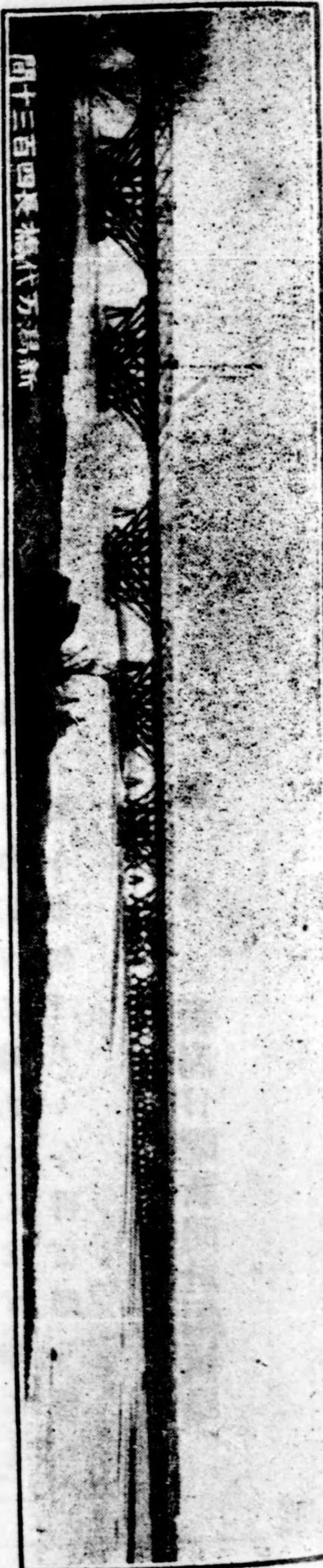
電話一四七二番
略(〇ア)又ハ(ア)

内外果實
食糧罐詰
乾物問屋

甲州勝沼葡萄指定問屋
金星印ミルク特約販賣

高島文治商店

新潟市上大川前通六番町
電話九九九八番
略(マ)又ハ(マ)



新橋代萬景

新橋代萬景



市街一部(日和山より及對岸ノ下望む)

我新潟市を説明せんとする印刷物少くなしさせず然も全
 きものあるを見ず。之を遺憾とし、充分なる紹介を爲さん目
 的を以て本書を發刊せり。雖も、之又完全を期す能はず。然
 りと雖も、概れ紹介の一端を盡せるを自信す。殊に本市現下
 の状態たるや發展せんとするの材料相限で起り日に月に
 變遷を見んさしつゝあり。吾等爾後其機會に於て漸次調査
 の細密、記述の懇切を期して改訂する事あらんさす。幸にも
 本書を閲して新潟市の大要を明知さるゝを得ば即ち望外
 の至りなりとす。

はしかき

編者 新潟日曜新聞社編輯局

新潟市案内目次

一、新潟市の今昔	過去より見たる新潟	一
二、今日の新潟市	水と美人と柳と橋	三
	戸数と人口	七
	廣表と面積	一三
三、交通	市街の組織	一七
	市内の國道	二一
	鐵道	二五
	流船	二九
四、市政	市廳舎及び機關	三三
	市の財政	三七
	教育	四一
	市立學校	四五
	官立學校	四九
	縣立學校	五三
	水泳と特種教授	五七
	教育會と青年會	六一
	縣立圖書館	六五
五、感化救濟事業	新潟縣出獄人保護會	六九
	新潟育兒院	七三
六、水道		七七
七、衛生		八一
八、消防		八五
九、商業	市内金融機關	八九
	商習慣	九三
	工業物	九七
	會社	一〇一
	法人	一〇五
	其他の組合	一〇九
工場其他		一一三

正 2
 大 12
 校 11
 内 交

- 一、新潟 築港……………築港經過概要……………新潟港修築工事……………信濃川河狀整理事……………工事竣成後の港狀……………將來の擴張工事……………第一期擴張工事……………第二期擴張工事……………豫算……………四八
- 一、官 衙 公 署……………六七
- 一、新聞 及 雜誌……………六九
- 一、商業 會議 所……………七〇
- 一、新潟縣物産陳列所……………勸商場……………市場……………名所……………舊蹟……………七一
- 一、住吉祭禮と川開き……………七七
- 一、越 後 鐵 道……………沿線の名所舊蹟……………七七
- 一、新潟の偉人名士……………竹内式部……………五十嵐凌明……………石川侃齋……………涌井藤四郎……………北山北海……………八〇
- 其他……………八〇
- 一、遊 樂 の 業……………旅館……………下宿屋……………料理店……………待合茶屋……………藝妓……………貸座敷……………娼妓……………劇場……………活動寫眞館……………人寄席……………遊技場……………郷土歌……………其他……………

- 一、附 録……………新潟市全景……………新潟百美人……………

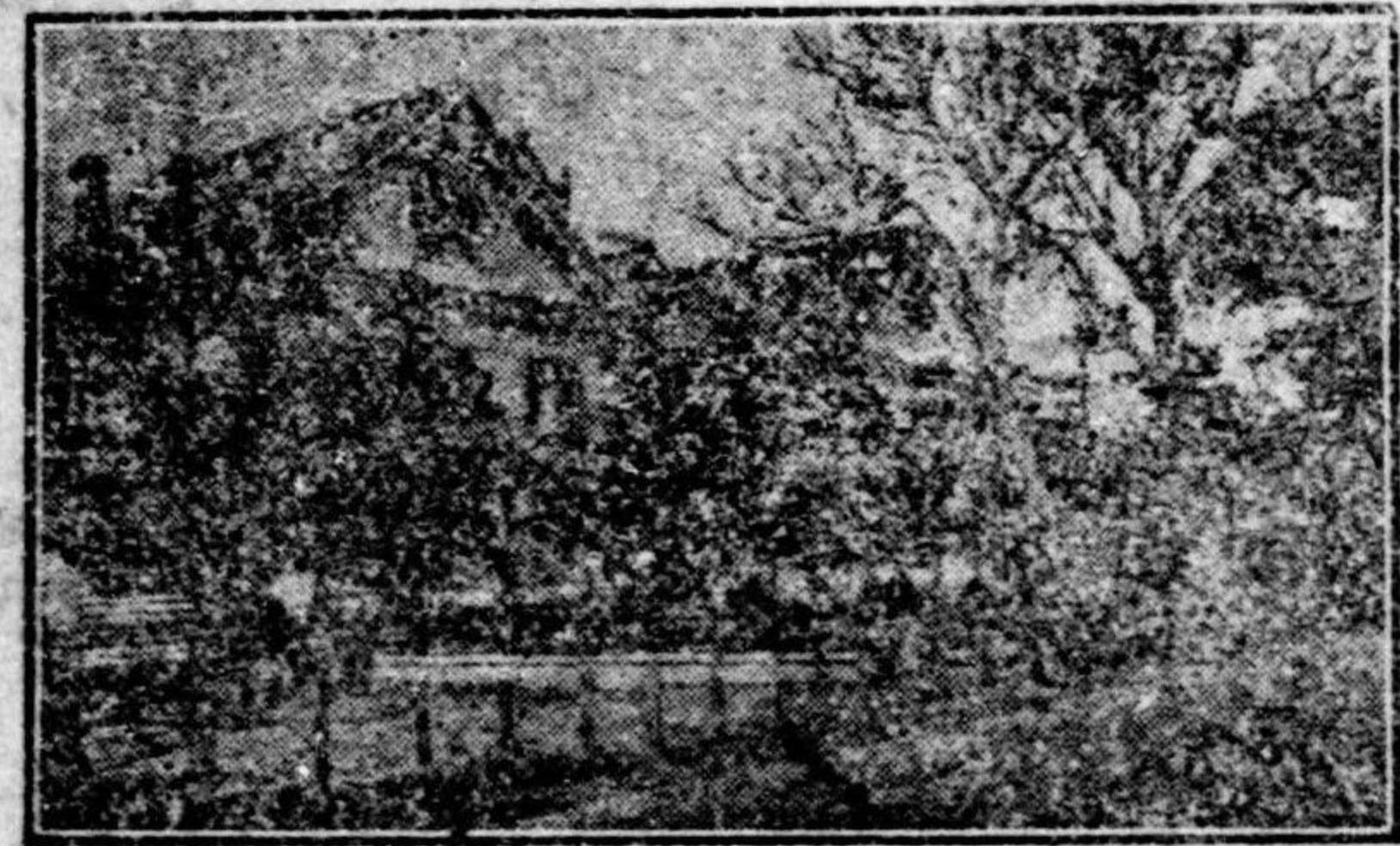
新潟市案内

新潟市の今昔

過去より見たる新潟

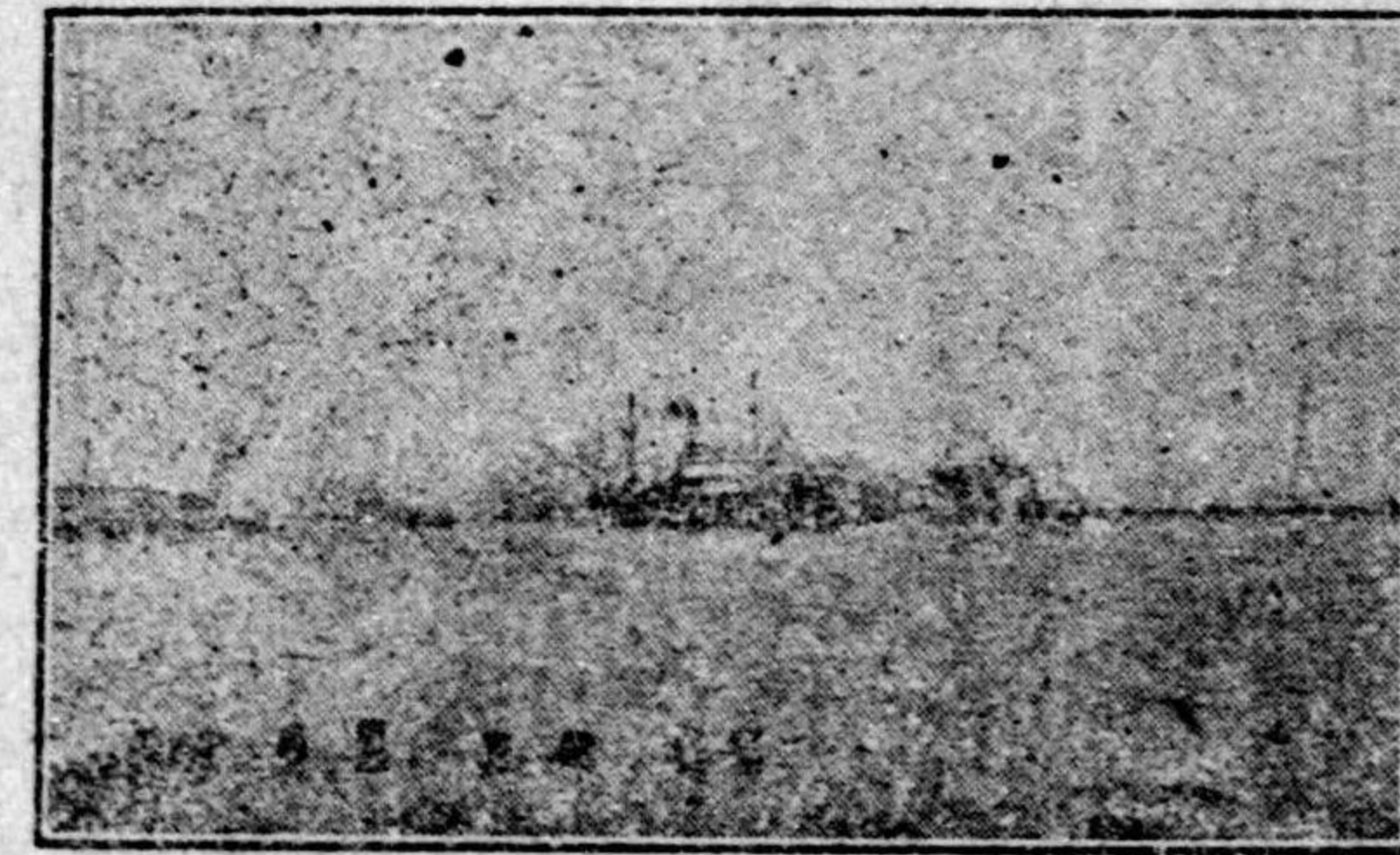
新潟市の沿革を地理歴史的に調査研究したなら其變遷の跡より見て却々趣味あることであらうが、それは信憑すべき記録文書に乏しい爲め其詳細を盡すことは出来ぬ、併し今日の新潟市なるものが信濃川と阿賀野川の交會するところに早く既に發達したのは事實であらう、而して新潟は彌彦山系の沙嘴の上に先づ新潟濱として發生し之れに相對して出來た出洲が即ち白山嶋で幾多出入の船舶はこの白山

島入江に纜を結んで既に港口の状態を呈したのである、更に新潟濱の沙丘に漁家を並べ又白山嶋は専ら海運を業としたのである、然して其の商業の及ぶところは阿賀信濃の兩川流域より更に擴張されて漸次沿海の各地に及んだのであらうかさて之れは如何なる時代であるか素より明かでないが、當時白山島にありしと云ふ新潟城に據りたるは新發田因幡ノ守の一族にて上杉景事實である、而して慶長十五年に至りては松平上總ノ守の守領地、元和二年より



勝がこれを攻め亡すに天正九年より同十一年まで前後三年を要したと傳ふものあれば既潟に同年間には相當市街の体裁をなして居たのは事實であらう又今日の關屋及西部の町名議たる今日の寄居町も其歴史が明らかなでない、然し最初は信濃川の沿岸に有りたるも其後堀越後ノ守の所領となりて以來現在の場所に移轉したのは

は長岡の城主堀丹後ノ守の知行四年よりは堀氏に代つて牧野駿河ノ守之れを知行し其後二百餘年を経て天保十四年幕府の公領となり奉行に依て統治され而して今日に至つたのである實に今日沼垂町に就ても殊に沼垂なる名稱にも種々なる説がある淳足或は乗足等の名稱もあるが兎に角此地は最初五瀬村の海岸であつたのであるが海嘯或は沙塵の爲め天明年間現在の地に移轉しに進みつゝあるのである、市街の体裁も去る大火以來全く面目を改めた。商品陳



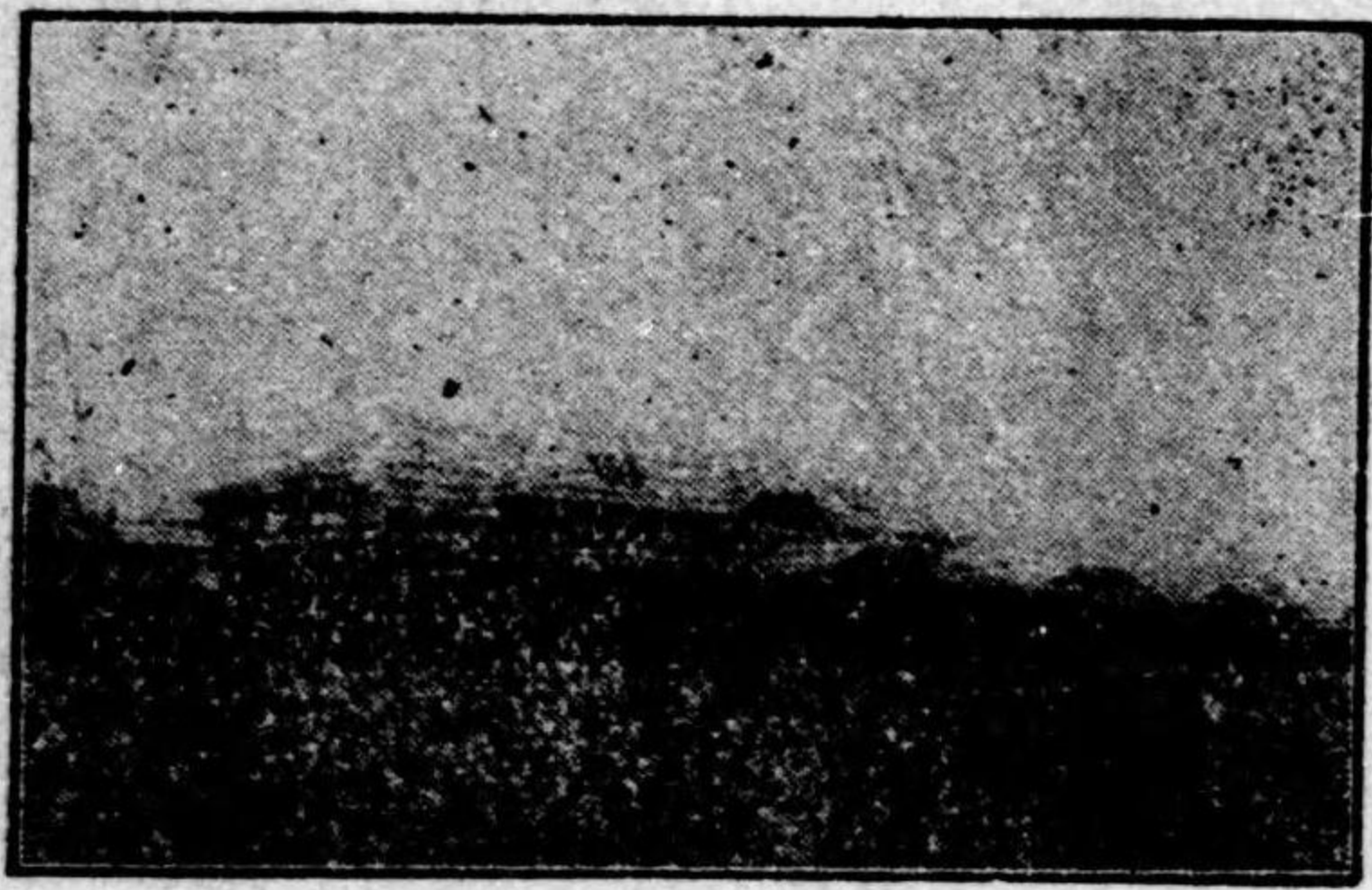
たのであると傳へられて居る

新 潟 水と美人
と柳と橋

日本五港の一に數へられたる 3
新潟市の今日は最早昔の新潟でない、今や人口十一萬餘交通機關の發達に伴れて單に人口戸數の膨脹に止まらず商業の如きも漸次進歩發達の域

今日の新潟市

列所も市に置かるれば理想的の圖書館も開かれた、沼垂町も合併され水道は出來る、これで目下計畫中なる築港が完成せば最早新潟市は申分のない北陸第一の都會地である然して新潟の外觀に於て先づ旅客の第一に目を惹くのは何であらうかそれは水と橋と柳と美人である。



沼垂町も合併され水道は出來に貫通する堀江溝渠に架された架橋の多きに驚くであらう全く新潟は水と橋の都會で又この堀江の兩側に植ゑられた霞に煙る柳の妍姿實に新潟美人には應しい背景である。

新潟驛に吐き出された旅客は先づ萬代橋の長さに驚かざる市に入りては縦横無盡百六十五人、女五萬三千五百二十三人である、新潟市は古來女の地にて杉の木と

大正十年末の調査に依る新潟市の人口は合計十萬三千九百五十八人である、中男五萬四

◆戸數と人口

男の子は育たぬと云はれるだけ他の市街地とは正反對に女の多きも又面白き現象である而して全市戸數一萬八千七百四十五戸といふ統計であるが近年戸數人口と共に増加率非常に著しくこれは既往の統計に依れば左表の如きものである。

年次	戸數	人口
明 曆 三 年	一、〇一戸	不 明
年 代 不 明	二、五一七	不 明
天 保 四 年	三、一三六	二〇、〇〇〇
同 十 四 年	六、〇二二	二二、五六五
嘉 永 五 年	不 明	二六、二七一
明 治 十 年	九、一五〇	三四、三七五
同 三 十 年	一〇、〇六八	五三、九二九
同 四 十 年	一一、八三五	六一、四八九
大 正 六 年	一六、七九四	九六、二七七

大正九年
同 十年

一八、二〇〇
一〇一、一八四
一八、七四五
一〇三、九五八

沼垂町の合併されたるは大正三年四月一日にて此合併以來一躍今日の人口戸數を見るに至りたるものである。

廣袤と面積

新潟市の始めて市制を布かれたのは明治二十二年の三月で大正八年を以て市制施行三十年祝賀式を舉行したが當時の面積は西端關屋町から東端綠町までの里程一里十五町二十五間南端上大川前通一番町から北端港口まで三十町三十八間であつた然るに大正三年沼垂町を中蒲原郡より分割して新潟市に編入され今日の大市街地になつたのであるが沼垂町の面積は凡て二百九十八萬三千三百三十二坪其地形は東西に短かく二十町五十間南北に細長くして約一里十四町これを全体の廣袤面積より見るときは面積一方里二七九毛、廣袤東西二里八町南北三十一町である。

交通

市街の組織

新潟市は左記二百三十六町及び沼垂町から形成されてゐる。

- 關屋 學校町 同自一番町至三番町 白山浦一、二 上大川前通自一番町至二番町 本町通
- 東堀通自一番町至十三番町 東堀前通自一番町至十一番町 古町通自一番町至十三番町 西堀前
- 西堀通自一番町至十一番町 醫學町通一番町二番町 寺裏通一番町二番町 東中通一番町二番町 [7]
- 通自一番町至十一番町 旭町通一番町二番町 南横堀町 營所通一番町二番町 寄居町 西中町
- 下旭町一番町二番町 旭町通一番町二番町 南大畑町 西大畑町 △北大畑町 南濱通一番町二番町
- 東大畑通一番町二番町 中大畑町 南大畑町 西大畑町 △北大畑町 南濱通一番町二番町
- 北濱通一番町二番町 田中町 四ッ屋町自一丁目至三丁目 翁町自一丁目至三丁目 烏帽子町自一丁目至三丁目
- 住吉町 並木町 榮町自一丁目至六丁目 壽町二丁目 寄附町 菅根町 東受地町

寺山町 寄合町 西受地町 入船町自一丁目至六丁目 山田町一丁目△二丁目 船場町一丁目二丁目
 附船町自一丁目至三丁目 東入船町 船見町一丁目△二丁目 稻荷町 元祝町 祝町 解
 川岸町 浮洲町 元下嶋町 豊照町 芳町 見方町 相生町 横七
 番町自一丁目至五丁目 夕榮町 赤坂町自一丁目至三丁目 早川町自一丁目至三丁目 田町一丁目△二丁目 西
 湊町自一丁目至四丁目 湊町通自一丁目至四丁目 △松岡町 本間町自一丁目至三丁目 緑町 東湊町
自一丁目至六丁目 新嶋通自一丁目至五丁目 花町 月町 雪町 礎町上一ノ町 同下大川
 前通自一番町至七番町 秣河岸二丁目 南多門町 北多門町 西廐嶋町 南毘沙門町
 北毘沙門町 曙町 横一番町 一番堀通 横六番町 窪田町 忠藏町
 魁町 海邊町一丁目二丁目 室町一丁目二丁目 西船見町

以上は何れも南北貫通した街衢で殊に本町古町の兩大通りが新潟目抜き町の町とさ
 れてゐる更に以上の大通を東西に貫くは左の各町である。

横町 ミルク小路 銅冶小路 船倉小路 曲師屋小路 新川 権現小路 碓
 屋小路 鍛冶小路 新津屋小路 小原小路 榎谷小路 八間小路 新堀 吹
 屋小路 坂内小路 六間小路 廣小路 能登屋小路 風間小路 片桐小路
 五歳堀 梅屋小路 思案小路 茂作小路 甚九郎小路 放生津屋小路 熊谷
 小路 才川小路

以上の各町は何れも小路の名稱なるが爲め恰も東京で所謂露路の如きものと思ふ
 ものもあらんが、これとそれとは大に其の趣を異にし就中榎谷小路の如きは市内
 第一の大通りである、これを要するに新潟市の街路は縦横によく整頓し居るも其
 の名稱に於て非常に長たらしく稱呼に甚だ不便なるものが多い、故に曾て市内有
 志中にはこれが改正を一時唱導するものもあつたが今尙そのまゝとなつてゐる、
 更に沼垂は左の五ヶ大字から組成されてゐる。

沼垂 蒲原 流作場 長嶺 山ノ下

其中沼垂の人口は一萬八千餘戸數三千五百餘で築港の聯絡關係より見るも今後

新潟の膨脹發展はこの沼垂に囑目されてゐる、否な現在既に多くの工場が續々この地に建設されて立派な工業地を形成してゐるのみならず、今後の發展は築港完成と相待つて眞に刮目に値する。

◆市内の國道

新潟市を組成する街路は以上の如くであるが當市街の國道は緑町税關支署前から港町を経て上大川前通り十一番町に出で左折して九番町に至り坂内小路より右折して本町通りを一直線に一番町に上り一番堀より更に右折して白山浦一、二丁目を経て市に連續せる西蒲原郡坂井輪村との境界までの間である、この國道は五號線と八號線の合一したる終點で五號線は東京日本橋より起り埼玉、群馬、長野の三縣を経て中頸城郡關川地内より本縣に入り新井、高田を經直江津から柿崎、柏崎、出雲崎、寺泊、彌彦、内野の海岸に沿ふて當市に入るのである、又八號線は日本橋から起つた五號線と群馬縣新町地内で分岐し前橋、澁川、沼田を經南魚沼

[10]

郡南旭村大字清水地内に於て本縣に入り前述の如く西蒲原郡坂井輪村大字平嶋で五號線に合し當市に入るのである又縣道は縣廳を基點として一は東中通り一番町を過ぎ左折して醫學校町通りに入り西堀通り裁判所脇を右折して西堀通り五六番町を經榎谷小路を一直線に萬代橋を渡り對岸の沼垂町に入り右折して中蒲原郡石山村にて盡きるのである而して市内の以上國縣道の總延長は一里二十六町餘最も廣い道巾は八間で最も狭いのが三間である、而して市内の橋梁は國縣道に架しありて國縣費支出のもの二十橋内石橋二市費のもの百二十八橋これに私設二十七橋を加へて合計七十五橋の多きを數へてゐる。

[11]

◆鐵道

新潟市は現在四個の停車場を有してゐる即ち新潟、沼垂（以上は何れも官線で信越、磐越、村上の三線）尙白山關屋の二停車場は私設越後鐵道株式會社の經營で柏崎に出で信越線に連絡するその間西吉田驛よりは支線に依りて彌彦に通じ、又

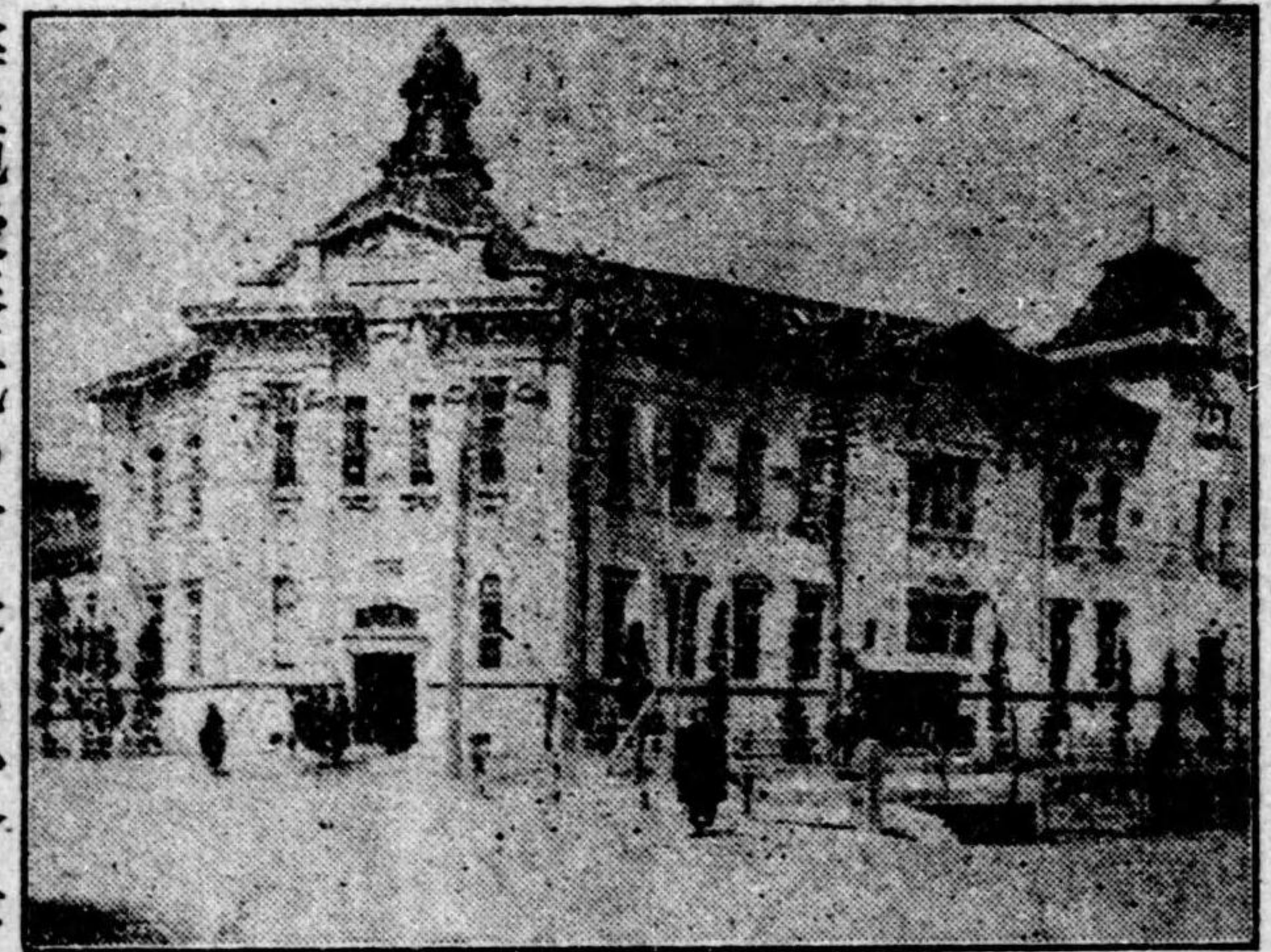
大河津驛よりは私設長岡鐵道に連絡するのである、而して各驛とも逐年旅客貨物共に著しく増加し只さへ車輛の不足を感じる折柄前年稀有の雪にて磐越線の一度び交通停止さるゝや客車は少なからぬ混雜を來し又貨物の如きは到る處の各驛に停滯した、併し徒歩聯絡の出來たる今日旅客の打撃は左程にもあらざるべけれど貨物の停滯は依然として甚しきものがあるが目下ケ―他定期航路にして新潟、小樽間には尙新潟運送會社取扱汽船その他藤田回漕取扱



越 鐵 白
新 潟 港 に 越 佐 汽 船 會 社 度 津 丸
の 定 期 航 路 は 新 潟 、 酒 田 間 七
停 十 二 哩 新 潟 、 佐 渡 夷 間 三 十 二
車 裡 で 毎 日 一 回 宛 の 往 復 を し て
場 有 る 、 又 佐 渡 商 船 會 社 の 佐 渡
丸 も 新 潟 、 佐 渡 夷 間 を 毎 日 一
回 の 往 復 を 爲 し て 有 る 、 そ の

◆汽 船

ひの汽船北越丸が新潟北海道間を時々航行し聯絡してゐる。以上は何れも航海であるが更に安進社の經營たる信濃川の汽船安進丸が毎日新潟、三條間新潟、長岡間を往復してゐる、その他中ノ口川筋に於ては汽船白根丸が毎日新潟、白根、新飯田間を往復してゐる、尙新川筋にも安進丸の新潟葛塚間の往復自治の行政機關即ち市政實施後歴代の市長は小倉幸光、鈴木長藏、八木朋直、萩



がある。

◇ 市政一般

◆市廳舎及び機關

新 潟
市 白 聖 堂 々 と 聳 ゆ る 現 在 の
市 廳 舎 は 位 置 に 於 て 變 ら
ざ る も 偶 四 十 一 年 の 大 火
災 に 遭 遇 し 新 に 豫 算 五 萬
餘 圓 を 投 じ て 新 築 落 成 し
た る も の で 有 る 、 而 し て

野左門、吉田良治郎、櫻井市作、渡邊兼二の諸氏を経て現市長柴崎雪次郎氏を迎へたのである、市長以下市の高級吏員左の如し。

市長 柴崎雪次郎
 助役 中村 淑人
 収入役 伊田 和作
 庶務課長 山田千代三
 教育課長 吉成新太郎
 戸籍課長 奥山 七郎
 土木課長 三浦 慶次
 稅務課長 永久保鏡藏
 水道課長 清水 新吉



白山神社

葉縣海上郡長として令名ありしを柴崎市長が市會の同意を得て推舉したのである

△新潟市會議員 左の如くにして(○印は市參事會員なり)

(議長) 竹山 正男 (副議長) 渡邊伊三吉

田代 三吉	○關 彦太郎	河邊 晃
水澤 三代吉	八幡 五助	渡邊伊三吉
○山田 篤治	松 木 弘	飯山 三治
小川種太郎	藤田儀平	和田 喜平
星 恒 二	小嶋 藤藏	○安倍邦太郎
鍵 富 健作	坂 本 有隣	渡邊熊三郎
小澤 七三郎	○鈴木 久藏	幸田慶三郎
藤田 簡吉	○安 藤 文祐	田村文次郎
○若井種次郎	竹 山 正男	薄田幸一郎
立川 甚五郎	森 節太郎	(死亡) 小山甚四郎
白 勢 二朔	舟 崎 仁一	松 井 郡 治

出塚助衛

荒川 潔

石山末松

市の財政

新潟市の豫算も人口の増加と時勢の進運に伴ふて近來著しく増加し來つたこれを今より十數年前に比すれば實に隔世の感があるのである、殊に沼垂町合併後は一層増加し大正十一年度の歳入出豫算總額を見れば歳入九拾壹萬六千五百四圓歳出經常部六拾壹萬四千八百圓臨時部參拾萬千七百四圓である其の内譯は左の如し

▲歳入科目

- 財産より生ずる收入 七千百參拾六圓
- 使用料及手数料 壹萬九千四百八圓
- 國庫下渡金 壹萬貳千六百圓
- 縣補助金 六萬五千參百六拾八圓
- 雜收入 參萬七百貳拾貳圓

同豫算高

線越税金

▲歳出經常部

- 役所費 九萬六千百拾七圓
- 會議費 參千八百〇四圓
- 土木費 五萬九千五百九拾九圓
- 教育費 參拾貳萬參千貳百五拾參圓
- 傳染病豫防費 九千〇七拾五圓
- 傳染病院費 九千貳百圓
- 汚物掃除費 壹萬九千五百六拾五圓
- 公園費 貳千八百九拾壹圓
- 墓地費 九拾八圓

合計

貳萬八千圓

七拾貳萬八千四百八拾九圓

九拾壹萬貳千五百〇四圓

火葬場費
 勸業諸費
 救助費
 警備費
 基本財產造成費
 水難救護費
 諸稅及負擔
 神社費
 公金取扱費
 號砲費
 街燈費
 雜支費
 豫備費

壹千八百〇七圓
 貳萬參百四拾八圓
 五千八百六拾五圓
 貳萬五千六百八拾圓
 壹萬七千參百五拾八圓
 貳千四百九拾九圓
 四百五拾五圓
 貳百四拾六圓
 貳千九百七拾六圓
 八百八拾貳圓
 參千八百八拾八圓
 參千八百貳拾參圓
 五千參百七拾貳圓

經常部合計
▲同臨時部

土木費
 小學校營繕費
 勸業諸費
 遊興稅徵收交付金
 寄附金
 醫科大學寄附金本年度支出額
 積立金
 公債費
 補助費
 雜支費
 臨時部計

六拾壹萬四千八百圓
 壹萬參千貳百五拾參圓
 九萬貳千〇〇參圓
 壹千八百七拾參圓
 貳千五百貳拾圓
 七千圓
 貳萬五千圓
 百拾九圓
 拾壹萬九百八拾圓
 壹萬九百貳拾參圓
 六百參拾參圓
 參拾萬壹千七百圓

歳出合計

以上の外尚特別會計に屬する水道費の豫算は左の如し

九拾壹萬六千五百圓

▲新潟市特別水道費歳入出豫算

一金拾六萬貳千七百七圓	歳入豫算高
一金拾五萬八千貳拾壹圓	經常部豫算高
一金四千六百八拾六圓	臨時部豫算高

▲王瀬排水費歳入出豫算

一金五百九圓	歳入豫算高
一金五百九圓	歳出豫算高

▲同水害豫防費歳入出豫算

一金五百八拾圓	歳入豫算高
一金五百八拾圓	歳出豫算高

▲流作場排水費歳入出豫算

一金九百八拾七圓	歳入豫算高
一金九百八拾七圓	歳出豫算高

▲流作場水害豫防費歳入出豫算

一金貳百六拾參圓	歳入豫算高
一金貳百六拾參圓	歳出豫算高

◆教 育

目下新潟市の教育的設備としては小學校九、實業補習學校十一、専修裁縫學校一、外に幼稚園二である、これ等教育の任に當る教員及び媒姆數は男女合計三百六十四人である、而して現在就學兒童一萬四千餘人である

校 名	所在地	校長名
◆市立學校		

新潟尋常高等小學校	東大畑	能村竹次郎
沼垂尋常高等小學校	沼垂鏡ヶ岡	五十嵐已之松
大畑尋常小學校	東大畑	櫻井彰
豊照尋常小學校	見方町	水野徳三郎
湊尋常小學校	古町十三	瀬賀虎三
入舟尋常高等小學校	稻荷町	薄田多七
萬代尋常小學校	流作場	石田信次
二葉尋常高等小學校	西舟見町	太田富次郎
鏡淵尋常小學校	白山浦	君池脩一郎
礎尋常小學校	礎町三	小池恒次
關屋尋常小學校	關屋	福田仁作
山ノ下尋常小學校	山ノ下字西吉川	稻生恒二
西堀幼稚園	西堀四	能村竹次郎

鏡淵幼稚園 西堀四 能村竹次郎
 今年々々就學兒童増加しつつあるが、前記二葉校を除く外何れも實業補習學校を開設し夜間教授をなしつつあり

◆私立學校

新潟女子工藝學校	西堀通二校	長橋本倉之助
北辰學館	學校町二	廣橋足穂
新潟靜修學校	東港町	赤澤鐘美
螢雪校	營所通一	佐藤莊松
新潟産婆學校	西堀十校	長高橋辰五郎

其他にして以上の中最も在學者の多きは女子工藝學校にして目下約五百餘名の生徒がある教授科目は家事、衛生、手工、裁縫、女子として必要なる普通學校である、北辰學館、靜修學校、螢雪校は何れも漢文、英語、數學にて目下三十人乃至

七十人の在學者がある其他縣立及び官立の學校は左の如くである

◆官立學校

新潟醫科大學 旭町通一 池田廉一郎
新潟高等學校 八田三喜

◆縣立學校

新潟師範學校 旭町二 宗像鴨四郎
全附屬小學校 全 永井廣
新潟中學校 關屋 八木光貫
新潟商業學校 白山浦二 松田安之
新潟高等女學校 學校町二 華房敏麿
新潟盲學校 西堀三 山中樵

大正十年新潟醫學專門學校醫科大學に昇格し目下擴張工事を急いでゐる

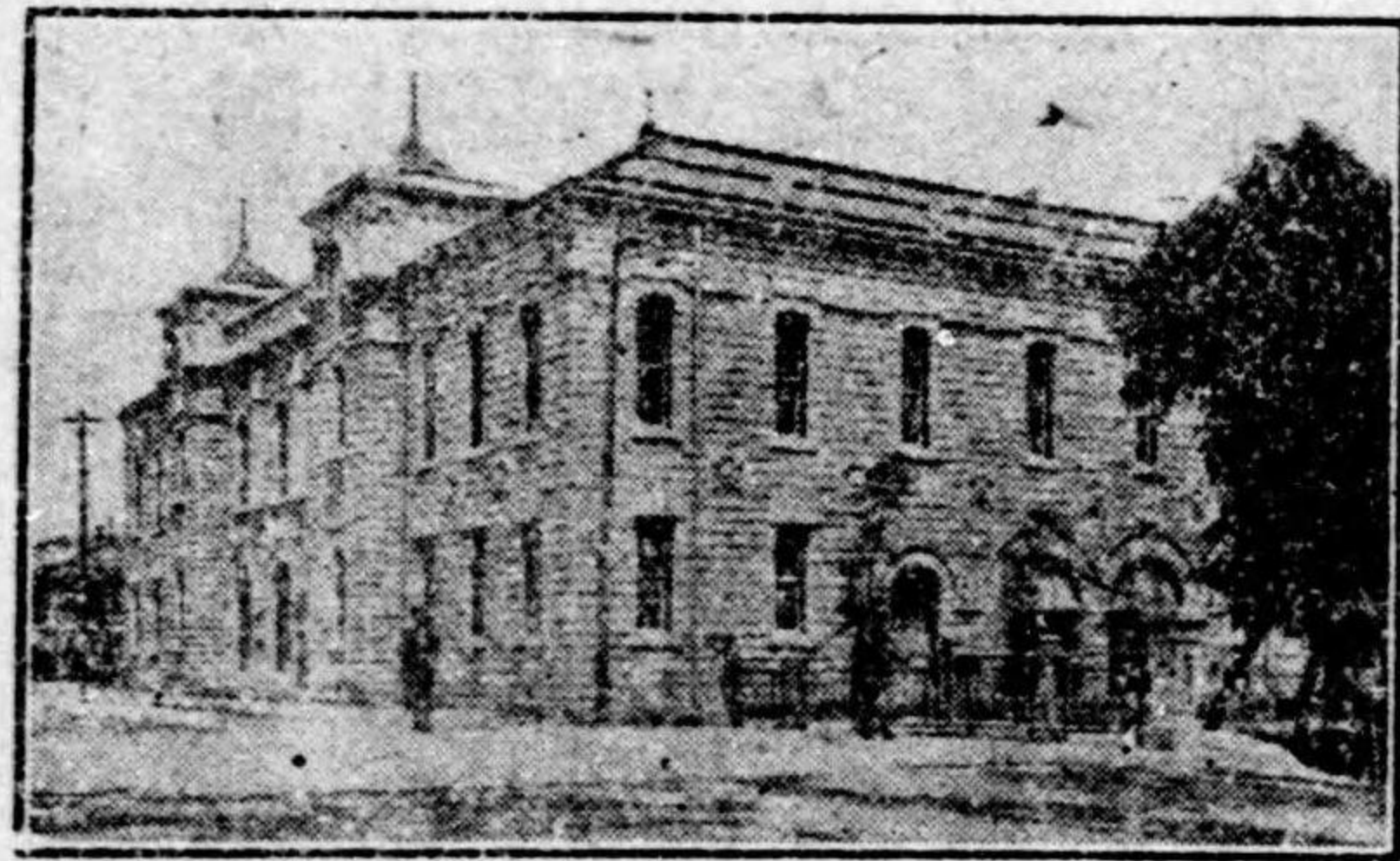
◆水泳と特別教授

新潟市立各小學校にては去る明治四十三年以來特に家貧困にして白晝就學する能はざるものゝ爲め夜間教授を附設し、これ等兒童を收容してゐるが大正六年四月末現在に依れば在學兒童數百四十名あり、尙三十二年以來水泳部を設け毎年引き續いてこれを行ひつゝあるが、海事思想の育成上これ又多大の効果がある、更に四十三年以來戊申詔書煥發の記念事業として兒童をして防砂防風の目的にて濱浦一帯の地に松苗を植ゑしめたるがその面積最早十數町歩に達してゐる

◆教育會と青年會

新潟市教育會は去る明治二十五年の創立にして會の事業としては教育一般施設經營學齡兒童の保護並に通俗教育各種の事業を爲し、其の一例を擧ぐれば前年來郷

土歌の募集を爲し、同通俗部に於ては爾來市内店頭裝飾の競技會を催す等各種の方面に活動しつゝあり、現在の會員七百餘名、尙婦人教育會にては三十七年四月附屬教場を開設し市内一般の下婢に普通教育を授けつゝあり、而して大正十一年三月までに卒業生を出すこと實に五百餘名現在生徒數七十八名でこの會員が百九十八名である、尙青年團は新潟青年會、沼垂青年協會、天皇の御聖徳を永遠に記念せんが爲め縣會の決議を經建築費約五萬圓を投じて大



新 潟 郵 便 局

山ノ下靜修會で之を總合したる聯合青年會の會員千八百八十三名で新潟青年會の會員何れも活動してゐる處女會は四分會に分れ會員千四百四十名の會員がある

◆縣立圖書館

市内に於ける圖書館としては本縣立明治記念圖書館一あるのみである縣立圖書館は明治

正五年六月起工し同年十二月に落成し大正六年二月に至り一般の開館を見たるものなるが同年に於て購入したる圖書約壹萬五千圓又この他に寄附があれば内容の充實に於て又建築の宏莊なるに於て正に模範的の圖書館として誇ることが出来るのである、而して現在毎日の閲覧人員約四百人を降らずといふ盛況である

◇感化救濟事業

◆新潟縣出獄人保護會

本會は明治二十二年在市佛教家の盡力特に前市長櫻井氏等の奔走に依り創立されたのである、氏の偶々義憤の結果公共の犠牲となりて入獄せるに出獄者の實狀に就て深く感じ且つ同情するものあり、三十五年特赦恩典に浴して出獄するや直ちにこれ等保護事業に力を盡し田中町現在の場所に土地家屋共に寄附し始めて出獄人を收容したのは、全年八月頃であつた、其の目的は素より免囚にして頼るべき

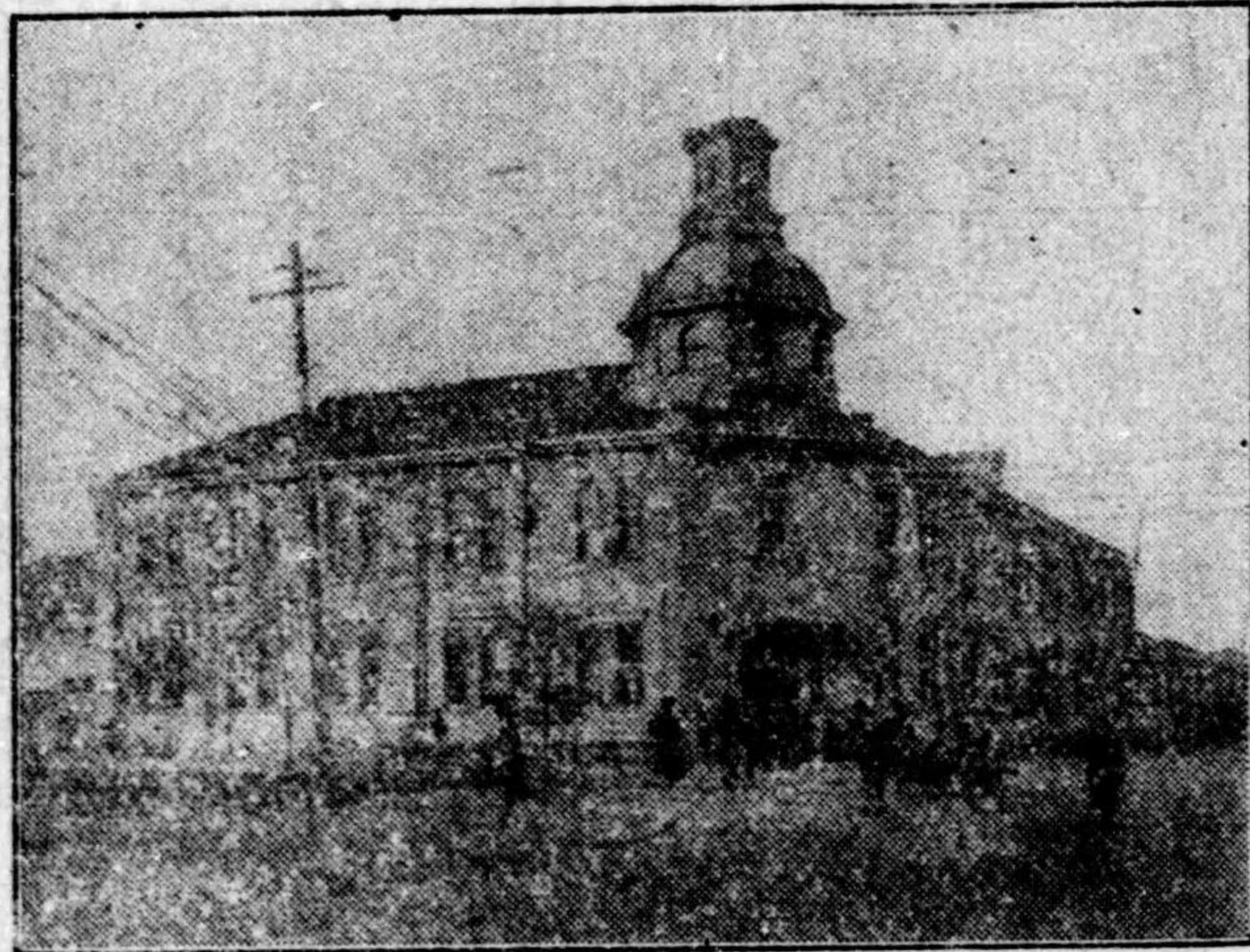
親義故舊なきものゝ救済で要するに適當なる職業を與へ良民に復歸せしむるのである、會長は坂本有隣氏で今や裁判所監獄の高等官を始め市内有力者の協賛を得益々効果を收めてゐる創立以來今日まで直接間接に保護を與へたるもの實に數百人に達し現に完全なる良民になりたるもの又少くないのである

◆新潟育兒院

新潟育兒院の目的は孤兒及び又兩親等あるも養育する資力及び能力なき哀れなるものを收容して教育するのである、位置は學校町二番町にあり、明治三十二年に創立の財團法人である、現院長は坂本有隣氏で市内篤志者の寄附に依りよく其の目的に向つて活動してゐる在院兒は現在約三十人位であるが既に全院を出て立派に社會に立つてゐるものも少くないといふ

◆新潟學園

本園は旭町二番町にある所謂不良少年の感化救済機關で院長は佐藤貞三郎氏外に教員二名囑托醫一名で在園兒童を教養感化してゐる、創立は明治四十二年四月一日で教育と勞作とを感化の骨髄となし専らこれ等の教化に努めてゐる、大正五年には御大典記念として全園一方なる砂丘に二宮神社を分祀し祠を建てこれ又教化の一費九十八萬九千五百三十余圓、内國庫補助八萬一千圓、縣稅補助十二萬圓事業は



新潟警察署

となつた經營の方法は縣費の補助と在園の一部勞作費を以て充てゝゐる目下の在園生約三十名である

◇水道

多年の懸案であつた新潟の水道が市會に於て具体的に可決されたのは去る明治四十年であつた工事

三年繼續で四十一年水道部を設け、當時の吉田市長部長になり櫻井市作、關彦太郎、白勢春三、小澤七三郎、若杉喜三郎、齋藤喜十郎の諸氏委員に擧げられ理學士三田善太郎氏を聘して愈々全年五月起工式を擧げたのである、爾來工事は案外にも早く進捗し四十三年十月茲に盛んなる通水式を擧げられて全時に一部の通水を見たのである、第一期に於ける給水豫定人口は六萬五千人第二期の豫定に至つては八萬人に至つた、而して平均一日一人當りの消費量は三立方尺最大一日一人當り三立方尺五である、水源は信濃川で西蒲原郡黒埼村大字寺地先より取水し之を堀内の圓井に集め之より西蒲原郡坂井輪村大字小新地内なる砂溜地を經市内關屋の開渠を通じ三個の沈澱池に入りこれを出でたる水は又直ちに傍なる四個濾過池に入るのである、又これを出で最早淨水は半田井に出て道水唧筒に依つて字南山の淨水池に入る、實にこの水が配水集合井に集り孔徑十八吋の鐵管を潜つて汎く市内に配水さるゝのである、而して大正九年末の各給水種類別を敷設當時の四十三年と比較し見れば左の如し

四十三年末		大正九年末		四十三年末		大正九年末	
專用	戸數 人口	七〇〇 四二三〇	三、一〇一 一七、七六九	特別專用	戸數 人口	一〇六 六七七	五四六 三、一二八
普通計量	戸數 人口	三七八 三、二三四	一、一八一 六、七六七	認定計量	戸數 人口	九八 五五〇	四一三 二、三六〇
特別計量	戸數 人口	1 1	五四六 三、一二八	公設共用	戸數 人口	七九〇 二、八五四	二、四五二 一四、〇四四
私設共用	戸數 人口	四七 一八一	三、七七七 二一、六四一	計	戸數 人口	二、二二六 一、二、二四二	一、二、〇三四 六八、八三八

尙創設四十三年中の一日平均配水量は三四、九九二立方尺又大正十一年に至りては廿萬立方尺となりて何れも敷設當時に比較すれば約數五倍となつてゐる

◇衛生

生

飲料水の衛生に及ぼす關係たるや極めて大なるものである然るに去る明治四十三年一度水道の敷設されて以來當市の衛生は漸次向上して來た而して近來に至つ

ては傳染病の如きも極めて少きに至りしとは喜ばしきことである、大正十年中の死亡者合計二千六百十三人の病氣別を見れば左の如し

傳染性的病	一八九	發育營養的病	二六三	皮膚筋肉病	二九
骨皮關節	一九	血行病	一六一	神經系	三八四
呼吸器病	四八五	消化器病	四六八	泌尿生殖	一二一
外 襲 症	三〇	中 毒 症	一三	原因不詳	一

以上呼吸器病中肺病は二百〇二人なり、尙大正九年の傳染病を見れば發生患者百十六人全治八十五人である而してその重なるは腸チブスであつた

◻消 防

新潟市の消防は總て十四部を以て組織さる、其役員は組頭一名、部頭、小頭、消防手で現在の組頭は三木常吉氏である、機械は蒸氣唧筒五臺、ガソリン唧筒三臺、小形モーターサイクル水管二臺同モーターサイクル唧筒一臺、腕用唧筒五臺、關

屋、大川前、山ノ下萬代港礎義勇消防等あり其の内容組織は勿論消防手の訓練等も著しく進歩の域に進んでゐる殊に大正六年十月以來本縣消防義會より金馬簾四條使用の允許ありて推賞されたるに鑑み倍々努力しつゝあり

◻商 工 業

當市の商工業は近時交通機關の發達に伴れて漸く振興し來つた、而して諸會社諸工場の如き續々創立さるゝものがある、更に將に起工中なる築港の完成を見るに至らば更に一段の振興活況を呈するは明かである

◻市内金融機關

銀 行 名	所 在 地	資 本 金	拂 込 金
株式會社第四銀行	東堀前通七番町	一一、八九五、〇〇〇 _円	九、三九五、〇〇〇 _円
株式會社新潟銀行	上大川前通七番町	四、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇

株式會社日本勸業銀行新潟支店	西堀通四番町	一、〇〇〇、〇〇〇	
株式會社新潟農商銀行	本町通十番町	七〇〇、〇〇〇	六一四、九一一
株式會社新潟貯蓄銀行	本町通七番町	五〇〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇
株式會社新潟商業銀行	上大川前通五番町	五〇〇、〇〇〇	一四七、五〇〇
株式會社新潟興業貯蓄銀行	上大川前通十番町	五〇〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇
株式會社新潟合同貯蓄銀行	上大川前通九番町	五〇〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇
株式會社長岡銀行支店	古町通六番町		
日本銀行新潟支店	上大川前通八番町	六〇、〇〇〇、〇〇〇	
株式會社六十九銀行新潟支店	上大川前通八番町	四、二〇〇、〇〇〇	
株式會社豐國銀行新潟支店	本町通九番町	一〇、〇〇〇、〇〇〇	
共榮貯金銀行新潟代理店	本町通九番町	一、〇〇〇、〇〇〇	
不動貯金銀行新潟支店	本町通七番町	一〇〇、〇〇〇	
帝國實業貯蓄銀行新潟代理店	古町通六番町		

商 習 慣

當市の商習慣上縣外旅客の最も注意を要するは呉服商中普通の鯨尺に依らず曲尺を用ふる商店があること故に所要の切れ端を求むるも尺が足らずして往々飛んだ迷惑を蒙るものがあるがお互に注意すべきである

工 産 物

市の工産物としては佛壇、襖、建具、箆筒、疊、履物、漆器、足袋、傘、織物、燐寸等であるが、就中名産の一として夙に世人に知らるゝは漆器及佛壇である、漆器に於て殊に歓迎さるゝは竹塗である、又圖案意匠の如きも近時著しく改善され産額も漸次増加しつつある、大正十年度に於ける新潟主要物生産産額は左の如くである

十年 度 市 重 要 工 産 品

品 名	生産價格	品 名	生産價格
佛 壇	110,000円	足 袋	64,000円

洋酒	グリース染	輸出原料テープ	麻真田	製綿	煙草燐寸	麵類	焼酎	味噌	機械其他鐵製品	肥料	鹽酸加里	硫酸
一、二〇九、〇九二	六八、二〇〇	八二、六五〇	四九、〇〇〇	四五、〇〇〇	四八、六〇〇	一九六、四二五	一四、二九五	二〇七、五〇〇	四、六四一、三七五	一、二五五、三四八	一五、一七五	一、二四〇、八〇六 _円

ロール紙	染物	同バテン	輸出原料ブレード	織物	蠟燭	安全燐寸	白玉粉	酒油	醬油	金銀及銅製品	洗曹達	醋酸
三六四、一五六	一五四、五〇〇	一一、三五〇	二、一〇〇	一七六、三三七	六三、〇〇〇	七四、七六六	一九五、〇〇〇	三七六、八八〇	二一八、九八二	四、一八六〇	二、一三九	八八、四〇五 _円

揮發油	重油	燃油	傘樽	酒樽	建具				漆器			
					簀屏風	襖	雨戸	障子	其他	飲食物器	裝飾品	家具
一九七、〇二六	七四、〇六〇	八、六二七	四四〇、六〇九	一三五、五〇〇	二六六、三四〇	四九〇、〇〇〇	四四、四〇〇	一〇八、〇〇〇	五〇、八〇〇	一三四、三六〇	一四四、一四〇	七七、一五〇 _円

ビッチ	鑛油	輕油	藁工	桶類	石油木箱	指物		履物	履物	疊床	疊床	
						其他家具	火鉢	箆筒	物	物	床	
二五八、八三三	四、四三三、一七二	五、五五五、四七六	一八二、八三〇	一三五、五〇〇	三三〇、〇〇〇	二〇、四〇〇	一五、〇〇〇	七二、四〇〇	一八四、四八〇	二七六、九六〇	九一、〇〇〇	四九九、〇〇〇 _円

紙	紙	紙	紙
荷	酢	糸	粗
札	三、三〇〇円	一、七二四、四五二	封
	八七、四三四	三七、九五〇	紙筒
			三六、八〇〇円
			四三、五三〇
			二六、〇〇〇
			一七、八八〇

會社

會社名	所在地	總資本金	拂込高
株式會社安進社	下大川前二	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇
新潟硫酸株式會社	並木町	一、〇〇〇、〇〇〇	六三、五〇〇
株式會社新潟米穀株式取引所	上大川前十	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
新潟倉庫株式會社	船場町二	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
新潟解曳船株式會社	綠町	二五〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇
新潟水力電氣株式會社	上大川前七	一、七五〇、〇〇〇	一、五二、五〇〇

會社名	所在地	總資本金	拂込高
新潟運送株式會社	下大川前七	二五〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇
新潟汽船株式會社	下大川前五	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
新潟精米株式會社	同六	一五〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
北越倉庫株式會社	同五	五〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
新潟水電株式會社	新嶋町四	二、五〇〇、〇〇〇	一、七二〇、〇〇〇
新潟鐵物株式會社	上大川前七	五〇、〇〇〇	三三、五〇〇
株式會社新潟鮮魚問屋	本町十一	五〇、〇〇〇	三三、五〇〇
東洋物產株式會社	上大川前九	一、〇〇〇、〇〇〇	四六〇、〇〇〇
廻船問屋倉庫株式會社	船場町二	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
新潟藁産業株式會社	船場町一	五〇、〇〇〇	一七、五〇〇
新潟鑛業株式會社	並木町	二〇〇、〇〇〇	一〇一、〇〇〇
越後鐵道株式會社	白山浦一	五、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
株式會社新潟健康舍	白山浦一	一〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇

株式會社新潟委託問屋	本町十一	五〇、〇〇〇	三、八〇〇
新潟製菓株式會社	寄居町	五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
北越肥料株式會社	礎町四	五〇、〇〇〇	一三、五〇〇
新潟產業資金株式會社	西堀通六	一五〇、〇〇〇	一三、五〇〇
新潟起業株式會社	西廐嶋町	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇
新潟活動寫真株式會社	一番堀通	九、〇〇〇	九、〇〇〇
活動常設 寫真新潟館株式會社	横七番町一	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
兩新鐵道株式會社	新嶋町通四	六〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇
新潟製氷株式會社	礎町三	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
新潟醋酸株式會社	沼垂	一、〇〇〇、〇〇〇	四七五、〇〇〇
北越製材株式會社	沼垂	三二、二五〇	三二、二五〇
新潟無盡株式會社	一番堀通	六〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
日本硫曹株式會社	沼垂	五〇〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇

名古屋紡績株式會社新潟工場	山ノ下	三五〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇
東洋冷蔵汽船株式會社	上大川前三	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
株式會社山岸商會	見方町	三五〇、〇〇〇	八七、五〇〇
新潟製紙株式會社	關屋	三〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇
東洋化學製油株式會社	東堀前三	二〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
川崎燐寸株式會社	西港町三	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
鍵三合資會社	上大川前十	四、八〇〇	五〇、〇〇〇
合資會社勸商場	古町七	三、〇〇〇	四、八〇〇
中野合資會社	營所通一	三、〇〇〇	三、〇〇〇
合資會社濱商店	下大川前六	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇
合資會社石黑商會	古町三	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇
合資會社山口商店	新嶋町二	一六、〇〇〇	三、五七〇
合資會社石黑肥料商店	上大川前六	一六、〇〇〇	一六、〇〇〇

合資會社齋辰商店	上大川前七	五、〇〇〇	五、〇〇〇
齋藤合資會社	東堀通七	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
合資會社丸源商店	沼垂	三、二〇〇	三、二〇〇
合資會社小町商店	上大川前七	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
合資會社寺井商會	雪町	六、〇〇〇	五、二〇〇
相互信用無盡合資會社	上大川前五	五〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
合資會社共益商會	上大川前七	五、〇〇〇	五〇〇
大正金融合資會社	沼垂	一〇、〇〇〇	九、五〇〇
正木合資會社	同	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
合資會社トキワ商會	上大川前六	五〇〇	五〇〇
合資會社綠商店	本町十	五二〇	五二〇
合資會社毛嶋新聞店	古町三	二、〇〇〇	九〇〇
新潟肥料合資會社	磯町一	二、四〇〇	二、四〇〇

新潟金融合資會社	一番堀通	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
清水合資會社	住吉町	七、〇〇〇	七、〇〇〇
合資會社いろは堂	營所通二	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合資會社十全堂	白山浦一	五〇〇	五〇〇
合資會社阿部商會	新嶋町二	一、二〇〇	六〇〇
北越襪樓合資會社	蒲原	一〇、〇〇〇	四、〇〇〇
合資會社近江屋商店	本町十一	五、〇〇〇	一、〇〇〇
八千代燐寸合資會社	西港町三	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
富士合資會社	上大川前九	五、〇〇〇	五、〇〇〇
村田合資會社	營所通二	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
合資會社共盛商會	礎町四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合資會社風間商店	本町八	一、七〇〇	一、七〇〇
合資會社土屋鑄造所	東堀通一	七、〇〇〇	七、〇〇〇

近澤合資會社	東堀通六	一、五〇〇	一、五〇〇
合資會社荒川商店	並木町	五、〇〇〇	五、〇〇〇
大正製飴合資會社	旭町一	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇
合資會社大阪屋材木商店	上大川前三	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
拓成合資會社	東港町四	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇
合資會社新潟商會	磯町二	五、〇〇〇	五、〇〇〇
合資會社寺井商店	古町七	一、〇〇〇	一、〇〇〇
山利合資會社	下大川前五	五、〇〇〇	五、〇〇〇
合資會社因幡屋商店	古町五	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
合名會社櫻組	上大川前七	五、〇〇〇	一五、〇〇〇
株式會社榎並銅鐵商店	秣川岸一	五、〇〇〇	五、〇〇〇
合名會社石本商店	並木町	二、〇〇〇	二、〇〇〇
合名會社丸七商會	上大川前七	八、五〇〇	八、五〇〇

合名會社二葉社	本町八	一〇五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
白勢合名會社	本町八	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
合名會社横山本店	上大川前十二	五、〇〇〇	五、〇〇〇
合名會社渡邊質店	東堀前六	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
大谷合名會社	下大川前三	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
藤崎合名會社	關屋	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

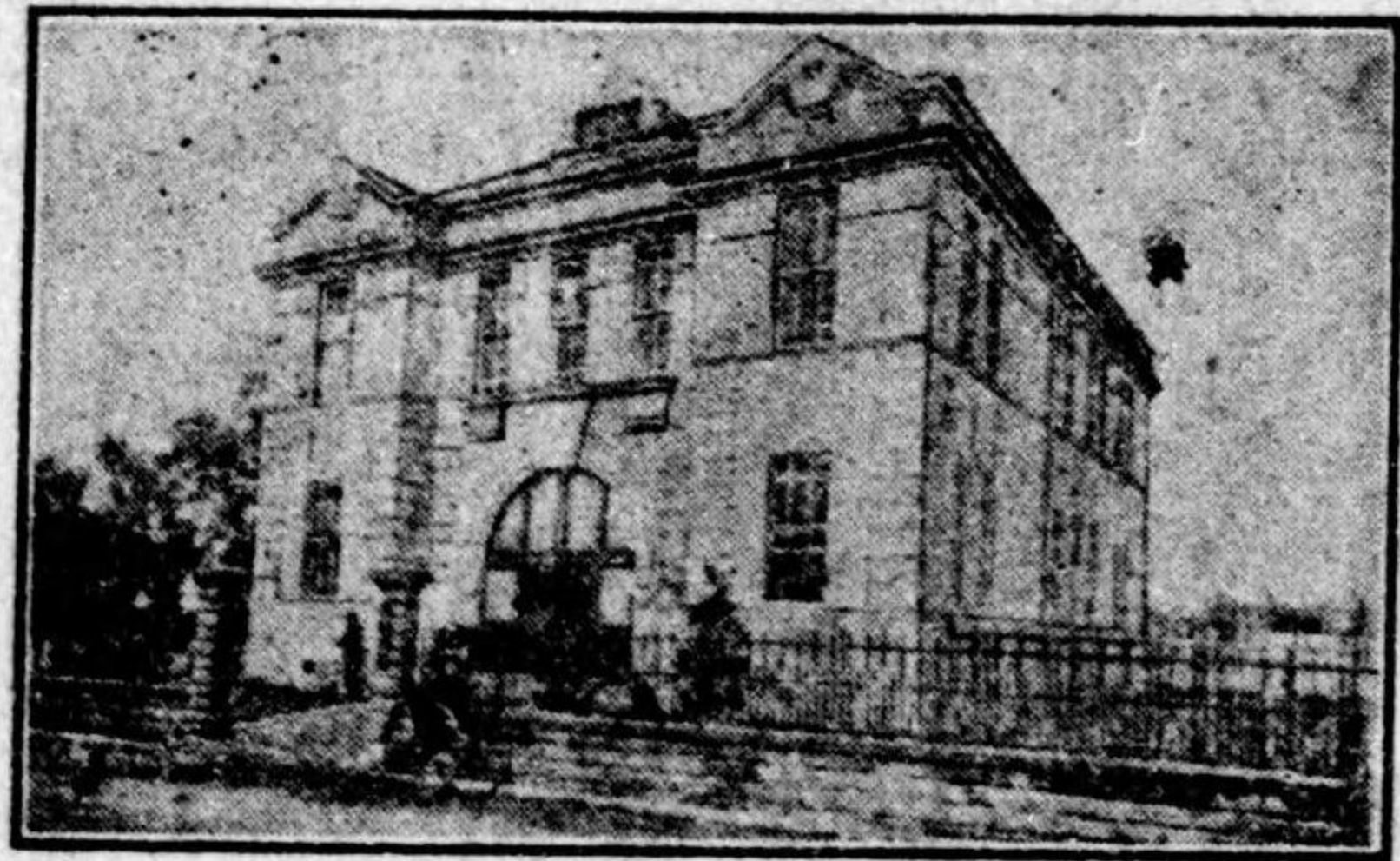
◆法人其他の組合

新潟木材商組合、同下組合、新潟砂糖商組合、新潟原油製造組合、新潟石炭商組合、新潟漆器同業組合、新潟佛檀業組合、新潟織物同業組合、新潟穀物仲買業組合、新潟陶磁器商組合、新潟四十物商組合、新潟菓子商組合、新潟足袋商組合、新潟履湯商組合、新物紙商組合、新潟小間物商組合、新潟金物商組合、新潟青物問屋組合、新潟栓材組合、新潟船主組合、新潟鮮魚商組合、新潟廻船問屋業組合、新潟

米穀委託問屋組合、新潟肥料商同業組合、新潟運送組合、新潟薪炭商組合、北越味噌製造組合、新潟海運業組合、北越輸出業組合、新潟煙草小賣人組合、新潟酒類仲買業組合、新潟建具組合、新潟質屋組合、新潟味噌醬油小賣商組合、新潟農具買業組合、新潟古物商組合、新潟牛乳組合、新潟蠟燭製造業組合、新潟製糖組合、新潟綿商組合、新潟履物商組合、新潟獸肉販賣業組合、新潟鹽元賣捌人組合、新潟青物小賣商組合、新潟酒造組合、新潟傘仲買業組合、新潟稅務署管内醬油製造組合、新潟指物組合、新潟精米業組合、新潟上白米商組合、同中、同下、同沼垂白米商組合、新潟印刷業組合、新潟輸出業組合、新潟公認運送組合、新潟吳服商組合、米穀輸出同盟組合、新潟菓子小賣商組合、新潟鹽小賣商組合、新潟海產物商組合、新潟縣自轉車業組合、新潟支部、新潟藥業組合、新潟時計商組合、新潟市酒類販賣業組合、新潟市茶業組合、新潟箆筒組合、新潟肥料商組合、新潟下疊業組合、同中、同上疊業組合、新潟市土木請負業組合、麵類業組合、新潟米穀取引所仲買人組合、新潟洋服商工組合、新潟靴商組合、新潟縣農會、新潟市農會、新潟商業會議所、新潟育兒院、

工場其他

造船所 一九
 精米所 一七
 硫酸製造所 二
 機業場 六
 菓子製造所 一
 燐寸製造所 三
 鑄物製造所 一
 石油製造所 七
 印刷所 十四
 製麵所 二
 白玉粉製造所 二
 瓦斯所 一



新潟商業會議所

染工場 一
 製餡所 三
 肥料製造所 二
 煙草製造所 一
 其他市内に散在する重なる會社、商店出張所、工場等を列舉せば左の如し
 日本石油株式會社 沼垂油槽所
 新潟ラムネ製造所
 新潟常盤商會
 三井物産株式會社 新潟出張所

内國通運株式會社新潟支店
三菱合資會社新潟出張所

高助合名會社
合同瓦斯株式會社新潟出張所

◇新潟築港

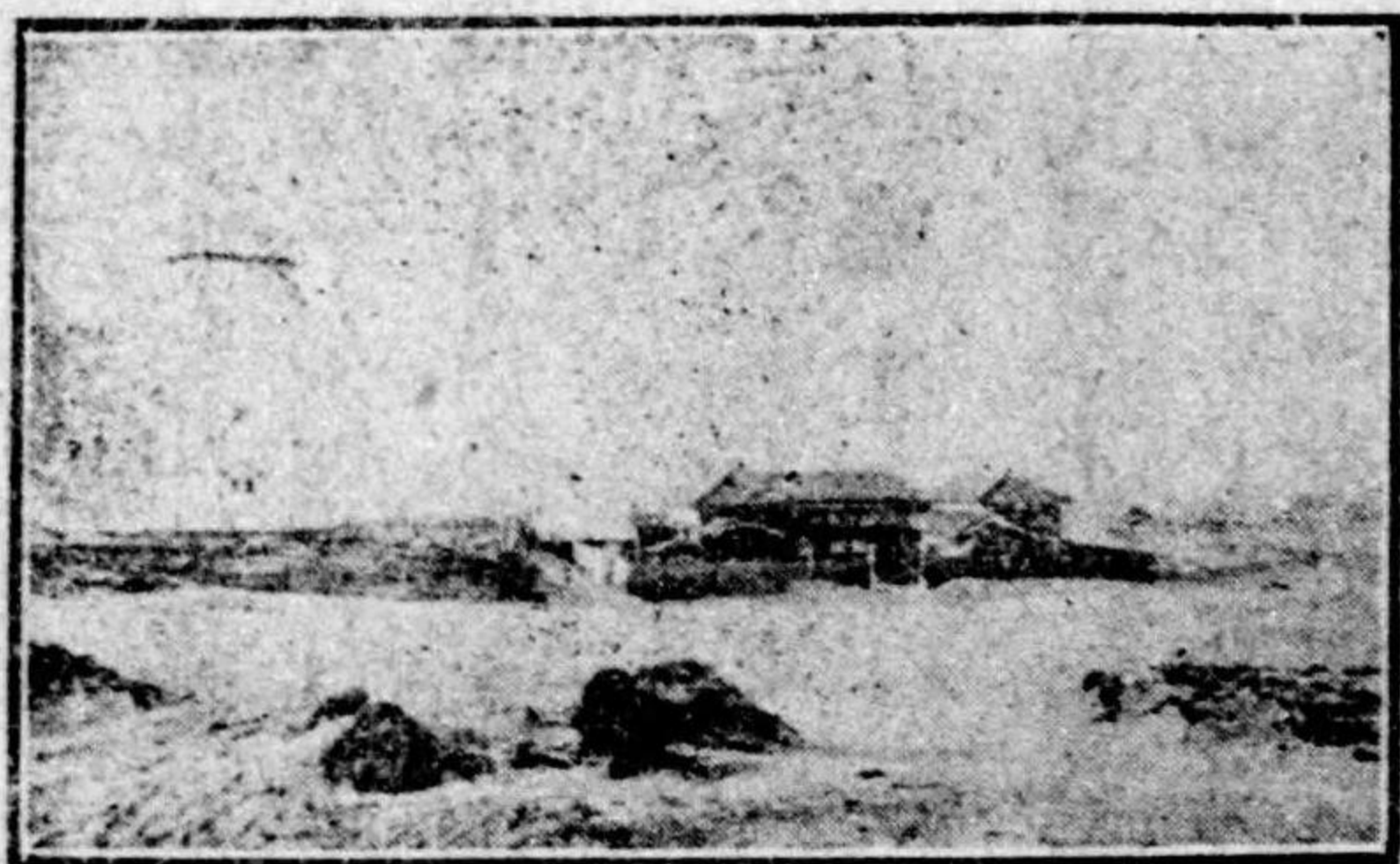
新潟港は信濃川河口の突端に位し背部は地勢平坦にて土地豊饒なる越後平原を擁し信越、越後、磐越及び羽越の各鐵道に依りて隣接する諸州と連り本邦中部及び北陸の貨物集散に任すべき要港である、明治元年政府は本港を擧げて帝國五港の一に列せしめ河流の變遷と土砂流送とは著しく河口の水深を減退し加ふるに外海の錨地は灣形不備にして共に船舶の碇繫荷役に便ならざるが爲め當市築港の要は早く古より既に唱へられてゐたのである、今や大河津分水工事及河口流末工事は近く將に工を終へんとするを以て進んで内港の設備を完全にし海陸運輸聯絡に遺憾なからしめ港灣を充分に運用せんとする事は目前の急務で又市多年の宿望を果す所以である、實に本港の良否は獨り市の消長に關するのみならず又以つて國

[48]

縣の利害に影響する處大なるものがある

◆築港經過概要

市は明治三十五年三月築港調査委員を設け大正三年七月技師を聘し測量設計に着手したのである、設計完了後全年十月市會に附議してこれを可決し、直ちに國庫及縣費補助の申請を爲したが國庫補助は大正四年度よりは到底詮議に及び難き旨通牒に接し而して起工の申請は大正五年一月許可され



新 潟 港 附 近

又全年縣費の補助は許可され全年三月築港事務所を開始し技師以下吏員を任命し起工準備に着手したが、全年八月に至り經營の所管を國營に移し遂に大正六年十一月十四日内務省土木出張所は起工式を擧げられたのである、之より曩き全年六月土地收用審査法に依り用地を收容して置いたのである其の設計の大体は一は新

[49]

潟港修築工事と一は信濃川河狀整理工事の二工事より成るもので現時施行中の信濃川改修工事と緩急相俟つて大正十二年度までに竣工せしむる計畫である、其の區域は上は白山浦二丁目地先より下新川合流點に達するまでに河身延長約一萬四千八百尺にして多門吐口より對岸を連続せる横斷線より下流に施行するものを新潟港修築工事となし、上流に施行するものを信濃川河狀整理工事とするその概要左の如し

◆新潟港修築工事

本工事は港内は水深二十五尺十八尺及十尺に浚渫し三千噸級以下船舶の碇繋に充て右岸には栗ノ木川と新川との間に幅平均五百六十尺延長二千七百四十尺、四萬四千面坪の埋築をなし護岸は水深十尺の物揚場とし其中央及北部の二ヶ所より埠頭を突出す。

北埠頭は新川導水堤の方向に沿ふて築設するものにして幅四百二十尺長さ千五百

尺中央に二軌條を敷設し周邊は水深十尺の物揚場となし將來船舶の増加と船形の増大するに伴ひ之を水深二十八尺岸壁に改造し先端より長さ五百尺幅三十六尺の棧橋を架設し石油運搬船の繋留區域とし鐵管を敷設し後方焼嶋潟沿岸に設備さるべき石油貯藏槽と聯絡せしむ本埠頭は主として石炭石油類荷役に供す。

中央埠頭は本工事中最も重要部に關し埋築地の中央よ起重機一臺を備へ背部にも亦二軌條を敷設して船車の聯絡を計り南岸には幅百二



新 潟 港 口 附 近

り北埠頭に平行し築設し長さ千五十尺幅三百六十尺北埠頭と相對して幅員七百尺の船渠を抱擁し頭部及北岸船渠側は水深二十五尺の南岸は水深十八尺岸壁となし北岸には岸際より二十七尺を隔て、幅百二尺長さ三百尺及二百十尺の上屋二棟を設け前面に二軌條と起重機線とを敷設し三噸揚げ電氣

尺長さ三百尺の上屋一棟を設く

一、繫船岸及物揚場護岸築設工事

本工事は中央埠頭々部長さ四百三十尺北岸長さ千五十尺の水深二十五尺岸壁とし南岸長さ千五十尺を水深十八尺の岸壁とする繫船岸築設工事と北埠頭々部四百八十尺全上南岸長さ千五百三十尺埋築地の西岸延長千八百四十尺全上南岸長さ六百尺を水深十尺物揚場とする護岸築設工事にして岸壁の前面は直立壁となし天場を低水面上七尺に止め上部には三十尺の間隔に防舷材を設け約百尺毎に繫船柱と繫船環とを設置し船舶の繫留に便にす物揚場護岸は厚さ三尺の捨石上に間知垣を積重し低水面上四尺に達せしめ之より同水面七八尺迄八割勾配に龜腹石を築設し距間約六十尺毎に繫船柱を設く。

[52]

二、浚渫及埋立工事

浚渫工事は新川合流點に於ける信濃川改修工事浚渫區域より港内を浚渫するものにして此浚渫面積及土量左の如し

浚渫面積	二十三萬一千面坪
浚渫土量	五十二萬五千四百五十立坪

埋立工事は浚渫土砂を以て施工し其面積及之に要する土量左の如し

埋立面積	七萬千五百面坪
埋立土量	十四萬二千立坪

以上の浚渫工事に依て生ずる殘餘の土量は之を信濃川河狀整理工事の埋立に使用するものとす。

三、陸上設備工事

本工事中の主なるものは上屋建設と軌條の敷設、電氣起重機設置、物置場設備及道路下水の築設之なり。

上屋は中央埠頭上に設け北岸に二棟南岸に一棟合計三棟とす内二棟は長さ各三百尺奥行本屋は七十二尺高さ二十二尺にして残り一棟は長さを二百十尺とし其他の構造は前記二棟と相等しく何れも兩側に幅十五尺の牀を設く。

[53]

軌條は沼垂停車場より分岐するものにして中央埠頭北岸上屋の前後に各二條及北埠頭に二條を敷設し之に據りて船車の聯絡を期す。

電氣起重機は自働揚重力三噸（工事中使用せる起重機を改造して之に充つ）のもの一臺を中央埠頭北岸に備へ岸際に沿ふて運行し荷役を敏速ならしむ。

物置場は中央埠頭の將來上屋建設敷地に假に設くるものにして石灰叩を施し貨物



新 潟 海 濱

の野積場に充當す。

道路は中央埠頭に設くるものは幅概ね十間にして將來其必要に應じ石張となす豫定にして北埠頭及聯絡用地内のものは幅五間乃至十間にして砂利敷道路となす。下水溝混凝土を以て周邊を作り必要の箇所には蓋石を設け總て道路に沿ふて築設するものとす。

[54]

信濃川河狀整理工事

本工事は河身を付替へ萬代橋より下流は川幅員を縮少して九百尺となし低水工事留砂段頭を聯結する孤線に接續す。

前記の河身は水深十尺に浚渫し兩岸を埋立て右岸には北端に於て幅三百尺長さ六百尺廣袤五千坪の船入淵を設け周邊は總て水深十尺の物揚場となし、漁船、曳船小蒸汽船解船及川船の繫留場に供し左岸は萬代橋より下は水深十尺の物揚場を築き埋立地と在來河岸との間には幅平均六十尺及百八十尺の運河を存し多門川吐口に於て其幅を擴大して漏斗形となし將來此處に船渠を設け埋立地北端に岸壁を築設し三千噸級船舶の繫留に當つるの餘地を存し尙鐵道を敷設して越後鐵道會社の線路と聯絡せんとす。

[55]

一、物揚場及埋立地護岸築設工事

物揚場護岸 右岸にありては船入淵の周邊延長千八百八十尺左岸は萬代橋より下及び埋立地北端長三千五百八十五尺合計五千四百六十五尺を物揚場護岸となすものにして其構造は前節修築工事物揚場護岸と全く相等し。

埋立地護岸は河状と地形とに據て構造を異にし。

水深十尺(甲)護岸	水深十尺(乙)護岸
水深七尺護岸	水深六尺護岸

の四種とす。

水深十尺(甲)護岸 右岸南端を除くの外信濃川本流に面する總ての部分にして捨石段上に間知石垣を築造するものなり。

水深十尺(乙)護岸 幅百八十尺運河及其入口護岸にして表面束柴を並列して砂留段となし低水面下三尺より間知石垣を築造す。

水深七尺護岸 幅六十尺運河及其入口護岸にして低水面上を石垣となすの外は水深十尺(乙)護岸と其構造相等し。

水深六尺護岸 右岸埋立地南岸及排水路護岸にして杭地形を施し之を基礎として間知石垣を築く。

以上の護岸は何れも天塲を低水面七尺となす。

二、浚渫及埋立工事

浚渫 河状整理工事区間の河身は水深十尺に浚渫す此浚渫面積二十六萬四千坪にして噸渫土量は二十二萬八千八百立坪なり。

埋立 右岸埋立は鳥屋野村河岸より下流船入澗終端に達するものにして埋立面積十八萬三千坪の之に要する埋立土量二十五萬七千立坪なり。

左岸埋立は白山浦二丁目地先より多門川吐口終端に至るまでにして埋立面積十一萬六千坪埋立土量三十坪なり。

以上の埋立は築港修築工事浚渫土砂及河状整理工事浚渫土砂を以て施行し埋立總面積二十九萬九千坪埋立土量五十五萬七千立萬坪なり。

三、下水溝及橋梁築造工事

下水溝は兩岸埋立地内豫定通路に沿ふて築設するものにして右岸埋立地内延長一萬四千百九十尺左護埋立地内延長一萬四千百六十尺なり下水溝は未だ之を以て完了せるものに非らざるも埋立地内排水の爲めに先づ以上の部分を本工事に於て築

設するものとす橋梁は幅百八十尺運河に一ヶ所其入口に一ヶ所幅六十尺運河に一ヶ所其入口に一ヶ所の四ヶ所と萬代橋の一部改築をなすものにして總て木造となす。

◆工事竣成後の港狀

一、工事竣成後の營造物

港内水面積	三十六萬坪
埠頭及附屬埋築地	七萬千五百坪
水深二十五尺繫船岸延長	千四百八十尺
水深十八尺繫船岸延長	千五十尺
水深十尺物揚場護岸延長	四千四百五十尺

本工事竣成後の營造物左の如し

一、新潟港修築工事

二、信濃川河狀整理工事

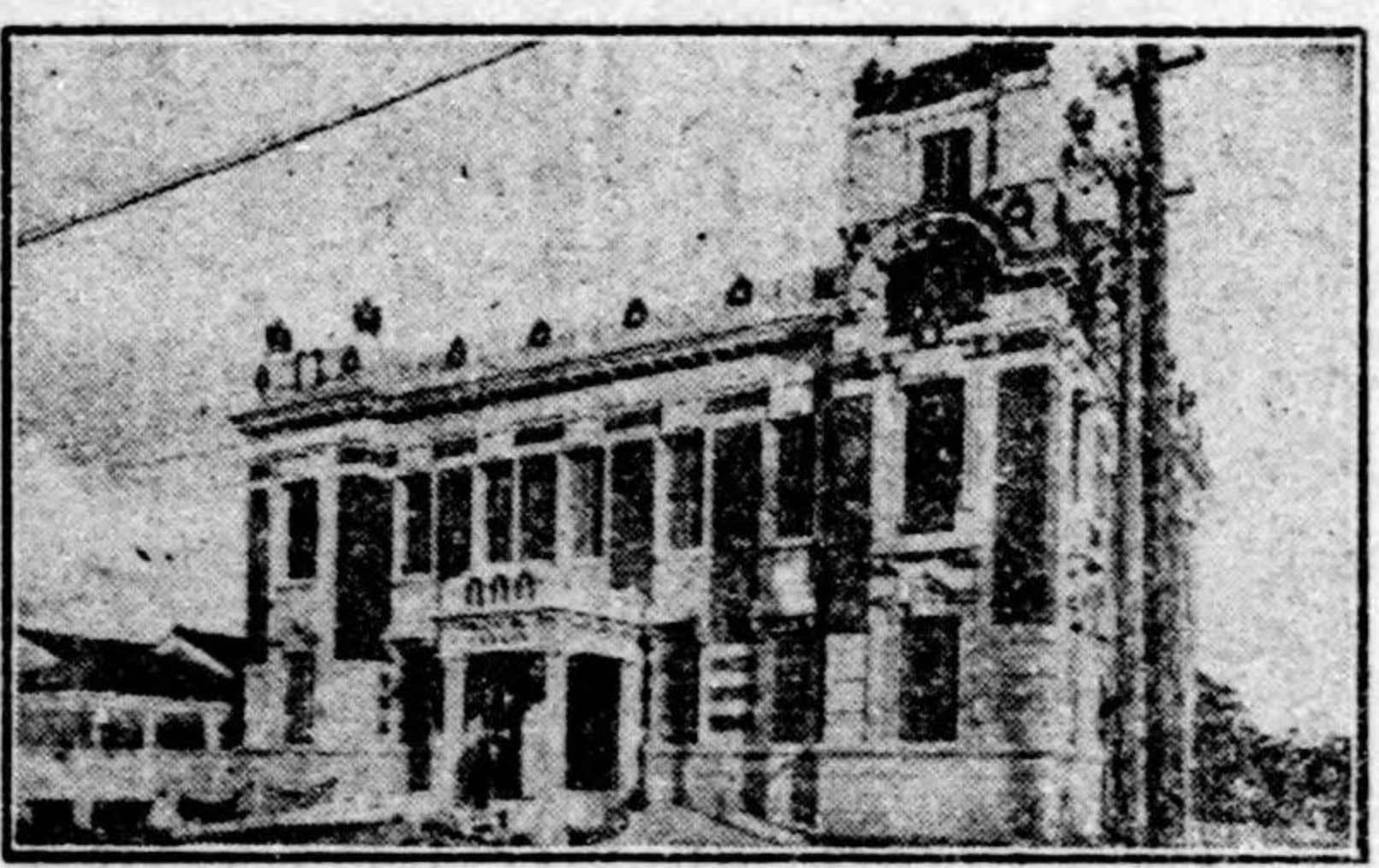
兩岸埋立地	二十九萬九千坪
水深十尺物揚場護岸延長	五千四百六十五尺
護岸延長	二萬三千二百十五尺
排水路護岸延長	二千三百尺

二、岸壁及物揚場の貨物取扱能力

本工事に依て千噸以上三千噸以下の汽船八隻小蒸汽船及帆船六十九隻此總噸數三萬三千二百五十噸は一時に繫船岸及物揚場に繫留し得べく又繫船岸の繫船能力を一ヶ年一尺當り百二十五噸とし物揚場の能力を其半數六十噸とせば一ヶ年八十九萬八千五百噸の荷役を果すことを得べし而して現時新潟港の輸出入貨物は一ヶ年二十八萬噸なりと雖も本工事竣成後背面運路圏内より集散するものと近海諸港に對する仲繼貨物とも合すれば約三倍に達するものとす。

三、埠頭及所屬埋立地及兩岸埋立地の需要

本港に於ける現在倉庫の敷地は九千四百坪にして其取扱貨物毎年平均七萬四千六百噸に達し之を本港の輸出入貨物二十八萬噸に對比するに二割七分に當る之に據て推思すれば工事竣成後は猶約一萬八千八百坪の倉庫敷地と一萬六千八百餘坪の野積貨物放置場を要する割合なり而して修築工事埋立部分有効地積約三萬五千餘坪は之れに利用すべき好適の地積にして兩岸埋立地有すべきを以て洪水の害を蒙ることなしと雖も工事中猶五萬立方尺の水量を流下す



新 潟 銀 行

効地積約二十萬餘坪は將來に於ける兩岸鐵道の聯絡と及び勃興すべき工業用地若くは市街地、倉庫地等として適當に利用せらるべきものとす。

四、工事竣成後に

於ける河水の状態
本工事の竣功は大河津分水
工事竣成後にして阿賀野川
改修工事も亦相伴ふて竣成

るを豫期すれば河狀整理部に於て每秒約五尺埠頭前面に於て約一尺七寸の流速を有すべく平時一萬立方尺の水量流下に當つては河狀整理部每秒一尺埠頭前面に於て約三寸の流速に過ぎず。

◆將來の擴張工事

新潟港修築及信濃川河狀整理工事は本港の改善に依りて集散せらるべき貨物八十萬噸に達すべきを豫斷し之れに適應すべき設備を企劃せらるものにして將來時運の進歩と本港の發達とに伴ひ増加すべき貨物に對しては漸を追ひ期を分ちて之れが施設を施さんとす、其大要左の如し。

◆第一期擴張工事

本擴張は左の四工事より成る。

- 一、西埠頭築造工事
- 二、石油棧橋築設工事
- 三、南埠頭築造工事
- 四、浚渫工事

一、西埠頭築埠工事 河狀修整工事左岸埋立地の北端より長さ六百尺幅三百尺水深二十五尺の埠頭を築造し三千噸級船舶の繫留に充て上屋一棟を設け鐵道を敷設して越後鐵道會社の線路に聯絡するものにして左岸唯一の繫船壁なるを以て施設最も急を要すべきものなりと雖ども經費の都合と工事の緩急とにより之れを第一期工事に編入せるものにして其工費拾九萬五百圓なり。

二、石油棧橋築設工事 新川導水堤の先端より長さ五百尺幅三十六尺の棧橋を架設し軌條と鐵管とを敷設し石油運搬船の繫留に供するものにして其工費參萬圓なり。

三、南埠頭築造工事 中央埠頭の南部に長さ七百二十尺幅三百水尺深十八尺の埠頭を築造し上屋一棟を設け千噸級船舶の繫留に充つるものにして此工費拾五萬貳千參百圓なり。

四、浚渫工事 西埠頭の河岸を長さ千二百尺幅五百尺に西岸を長さ千二百尺幅三百二十尺に何れも水深二十五尺に浚渫し及南埠頭周邊水深十八尺に浚渫する

工事にして此浚渫土量十四萬八千立坪工費拾壹萬八千四百圓なり。
以上の擴張工事に據て三千噸級船舶五隻千噸級船舶七隻此噸數二萬二千噸は同時に繫留する事を得べく一ヶ年四十七萬五千五百噸の荷役を増加するに至るべし。

◆第二期擴張工事

本擴張は左の三工事より成る。

一、北埠頭改築工事

二、舟見町物揚場護岸築設工事

三、浚渫工事

一、北埠頭改築工事 北埠頭を水深二十八尺岸壁に改築し上屋三棟を設くるものにして此工費參拾四萬貳百九拾圓なり。

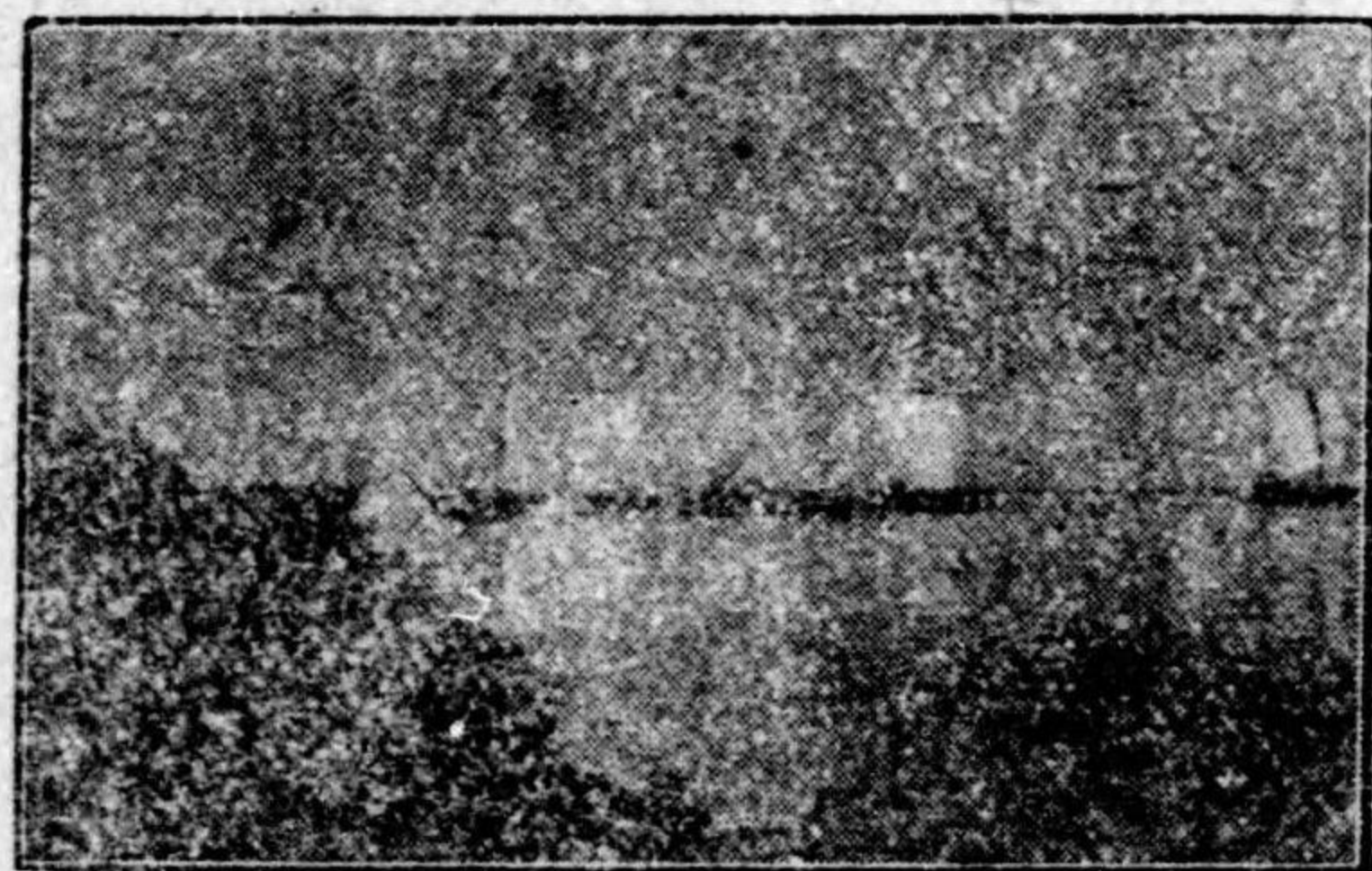
二、舟見町物揚場護岸築設工事 舟見町河岸より左岸突堤基點に達する延長三千尺を水深十尺物揚護岸となすものにして此工費五萬四千圓なり。

三、浚渫工事 河口より北埠頭に達する水路を水深二十八尺に浚渫するものに

して此竣渫土量約十七萬六千坪工費八萬八千圓なり。

本擴張に據て五千噸級船舶
四隻小蒸汽船及帆船二十隻
此噸數二萬五千噸は同時に
阜頭に繫留する事を得べく
一ヶ年三十萬噸の荷役力を
増加するに至るべし。

第二期擴張工事竣成に當て
は千噸以上五千噸以下の船
舶二十四隻小蒸汽船及帆船
七十一隻此噸數七萬五千七
百十噸は同時に繫船岸及棧



橋に繫留する事を得べく一
ヶ年百六十七萬餘噸の荷役
力を有するに至るを以て本
港の修築は茲に段落を告ぐ
るに至るべきも猶不足を來
たすに於ては河狀整理工事
右岸船入澗の西岸を阜頭と
なし及び萬代橋より下河口
に棧橋を架設して之れに應
ずることを得べし。

[64]

備考 擴張工事費中には監督費豫備費を含ます

◆豫算

一、新潟港修築並信濃川河狀整理工事豫算

一金百八拾貳萬五千圓也

内

一金百貳拾貳萬五千圓

一金六拾萬圓

二、新潟港修築工事費

一金百貳拾貳萬五千圓也

内

一金貳拾參萬四千八百貳拾圓

一金八百萬圓

一金壹萬六千圓

一金拾參萬圓

豫算總額

新潟港修築工事費

信濃川河狀整理工事費

豫算額

繫船岸築設費
(延長二千五百三十尺)

物揚場護岸築設費
(延長四千四百五十尺)

繫船物設置費

船舶及器具機械類購入費

[65]

- 一金六萬五千圓
- 一金四拾貳萬參百六拾圓
- 一金壹萬七千參百拾圓六拾八錢
- 一金七萬貳千九百圓
- 一金參萬圓
- 一金貳千百參拾圓
- 一金八萬五千四拾四圓
- 一金貳萬五千圓
- 一金四萬五千圓
- 一金千參百參拾五圓參拾貳錢

三、信濃川河狀整理工事費

- 一金六拾萬圓也
- 內
- 一金貳拾六萬千四百五圓

工 場 設 備 費
 浚 溝 費
 道 路 及 下 水 築 設 費
 上 屋 建 設 費
 軌 條 敷 設 費
 物 置 場 設 備 費
 監 督 費
 用 地 費
 豫 備 費
 雜 費

- 一金九萬八千參百七拾圓
- 一金壹萬四千九百五拾圓
- 一金參千參百拾貳圓
- 一金拾八萬參千四拾圓
- 一金壹萬七千九拾七圓
- 一金壹萬九千參百圓
- 一金貳千五百貳拾六圓

豫 備 費
 岸 築 設 費
 (延長二萬三千二百十五尺)

物 場 護 岸 築 設 費
 (延長五千四百六十五尺)
 排 水 路 築 造 費
 繫 船 物 設 置 費
 浚 溝 費
 下 水 溝 築 設 費
 橋 梁 築 造 費
 雜 費

官 衙 公 署

- 新 潟 縣 廳 東 仲 通 一 番 町
- 新 潟 區 裁 判 所 學 校 町 通 一 番 町
- 新 潟 稅 務 省 營 所 通 二 番 町
- 橫 濱 稅 關 新 潟 支 署 綠 町
- 新 潟 本 町 十 二 番 町 郵 便 局 本 町 通 十 二 番 町

- 新 潟 地 方 裁 判 所 學 校 町 通 一 番 町
- 內 務 省 新 潟 土 木 出 張 所 白 山 浦 一 丁 目
- 新 潟 監 獄 西 大 畑 町
- 新 潟 郵 便 局 東 堀 通 七 番 町
- 新 潟 本 町 郵 便 局 本 町 通 八 番 町

新潟古町郵便局
 新潟東中通郵便局
 新潟上大川前郵便局
 新潟南濱郵便局
 新潟 燈 臺
 高崎專賣支局新潟出張所
 新潟警察署
 新潟土木派遣所
 新潟縣輸出米検査所沼垂出張所
 鐵道院沼垂驛
 新潟測候所
 新潟縣商品陳列所
 縣立圖書館

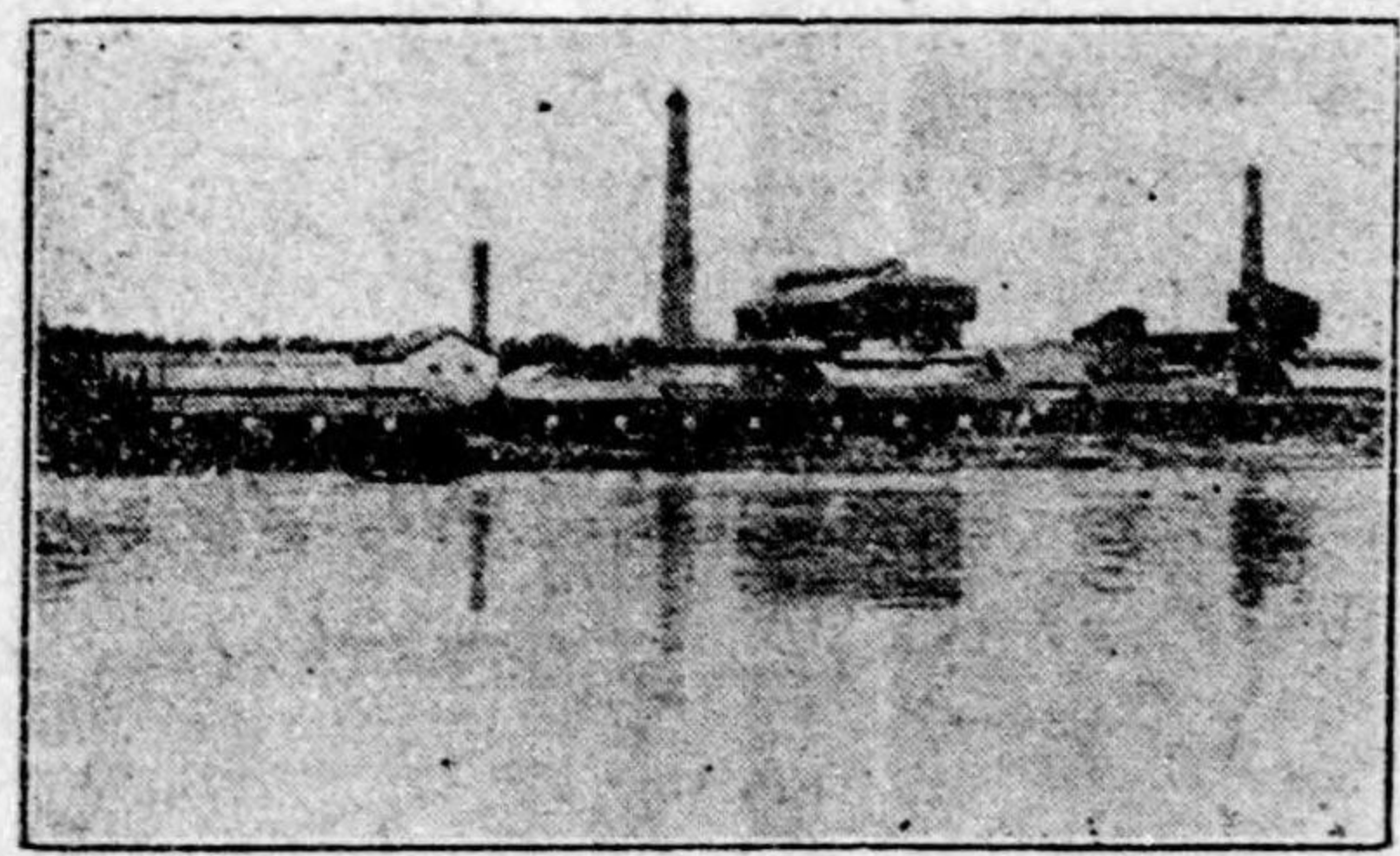
古町通四番町
 東中通一番町
 上大川前通十番町
 南濱通一番町
 船見町二丁目
 魁 町
 西堀通五番町
 東中通一番町
 流 作 場
 旭町通一番町
 學校町通一番町
 寄 居 町

新潟學校町郵便局
 新潟礎町郵便局
 新潟船場町郵便局
 沼垂郵便局
 東京遞信局海事部新潟出張所
 新潟市役所
 新潟縣巡查教習所
 新潟縣輸出米検査所
 新潟警察沼垂分署
 鐵道院沼垂驛
 新潟 學 園
 新潟縣會議事堂

學校町通二番町
 礎町通二ノ町
 船場町一丁目
 沼 垂
 魁 町
 西堀通六番町
 西堀通五番町
 東中通一番町
 沼 垂
 沼 垂
 旭町通一番町
 一番堀通町

◇新聞及雜誌

新潟毎日新聞 新潟朝日新聞
 新潟新聞 新潟公論
 (以上日刊)
 新潟日々商況 新潟實業新聞
 (以上夕刊)
 新潟 公友 新潟日曜新聞
 東北時報 (以上週刊)
 さきがけ (旬刊)
 北越新報 (新潟支局)
 報知新聞 (新潟支局)
 旋等を目的として市政改善上努力してゐる。



此外言論機關としては毎年開かるゝ通常縣會に出入する市内及縣下の各新聞記者を以て臨時的に縣政記者聯硫合會を組織し縣會開會中親睦會を催すを例としてゐる會市には市役所出入記者を以て「市政記者俱樂部」を市内に設置して市政の研究市繁榮策の講究又は觀光團の幹

新潟市政俱樂部(市役所内)
 新潟毎日新聞
 新潟新聞
 新潟朝日新聞
 新潟公友
 新潟日曜新聞

◇商業會議所

商業會議所は上大川前通七番町にあり明治二十九年十二月法律に依て創立されたもので、区域は新潟市一圓議員數は通常議員數は通常員三十名特別議員五名現在の會頭は鈴木久藏氏である、議員左の如し。

渡邊興次郎	山田篤治	眞野善壽	山本隆太郎	齋藤庫四郎
八木孝助	安藤文祐	和田喜平	鍵富健作	藤田簡吉
鈴木久藏	幸田慶三郎	田代三吉	若井種次郎	石山末松
薄田幸一郎	永原啓資	鹽野健太郎	田邊徳次郎	小澤七三郎
白勢量作	田邊健三郎	田村文次郎	小川種太郎	荒川才二
八幡五助	信吾			

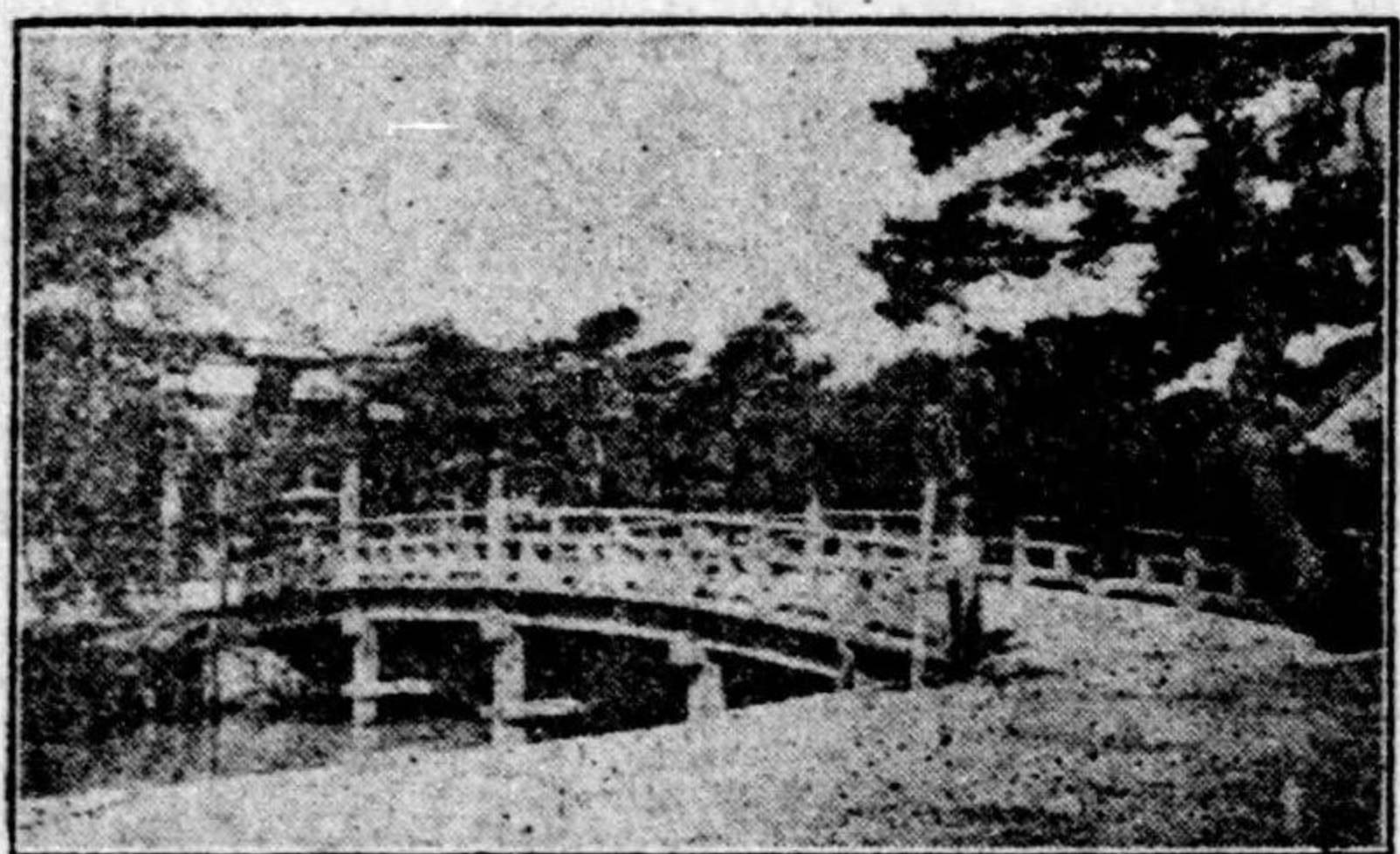
特別議員

齋藤喜十郎 白勢春三 松田安之 久須美東馬 長谷川 鋼之允

◇新潟縣

商品陳列所

本縣の經營する處で場所は白山公園に隣接する白山浦と學校町の交叉點にあり敷地總坪數二千五百坪建物は本館、第一號館、第二號館事務所の四より成る目的と之允氏で技手藤卷清次郎氏である。



する處は勿論本縣産業の獎勵にありて参考上有益なる内外國産物の物産を陳列し公衆の山縦覽に供し又販賣をもするの公である又産業に關する國書を蒐集し公衆の閱覽に供し或は入産業に關する調査を爲し又圖案の調製その他あらゆる産業の進歩に關して常に活動しつゝある、館長は技師長谷川鋼

同館に於て委託販賣品にして當市の主要産物の主なるものは次の如くである。

漆器、佛壇、バテン、木綿縞、染物、桐箆筒、桐火鉢、履物、菓子(袖香里糖、五穀糖、梨ノ實)白
玉粉、揮發油、漬物(甘露梅無花果甘露煮)竹製品、又物

◆勸 商 場

市内の勸商場は新潟勸商場地球館は何れも古町通り六番町にあり又金比羅神社前通りにも一ヶ所の勸商場がある、販賣方法は市内の各商店が總ての商品を持ち寄り旅客等には一層便利である。

◆市 場

新潟の朝市場は本町五番町より六番町同十二番町より十三番町の二ヶ所に毎日正午十二時までにかかるのであるこれが又非常な繁昌で市民の口に入る大部分の蔬菜魚類概ね此處から供給するのである、又沼垂にも同様この市が開かれて非常な活潑を見るのである、尙運上所の古着市は毎月二五八の定日に港町一帯の両側に

開かるゝのであるが此處も亦却々の繁昌を見る、御歳市は即ち歳の市で毎年極月二十四日より始まり大晦日まで八日間古町本町の兩町に交代にかかるゝのである夏季に入れば古町六七番町と本町二十三番町に草花、金魚、果物などの露店商街路の兩側に居流れて頗る賑ふのである。

◆名 所

(白山公園) は郷社白山神社祠畔にある、一方信濃川に沿ふて山水の景勝を占め眺望又一種的情緒に富む、創成は明治六年七月で維持方法は市税と土地貸付料に依るのである、園内には料理店長江亭あり、又茶亭松江亭がある、瓢形の池には鯉魚跳り初夏の藤又見事なるものである、松江亭に沿ふて砂丘をを昇れば其處には曾て先帝陛下の蹕を駐め賜へし美由岐ヶ岡がある、又大正五年には皇太子殿下行啓遊ばされて御手植の松がある、園の面積は八千八百歩、又其の中には祝壽松碑、昭忠碑、豊碑の記念碑がある、老松至る處に空を摩して夏の散策には

最も適するのである。

(日和山) 山と稱する單に一の砂丘に過ぎず位置は東堀通り十三番町にして丘上には俗に船見櫓なるものあり即ち天候を豫知して常に出入の船を監視したのである櫓上昇れば全市街を脚下に見下し一方には角田彌彦の雄姿を眺め佐渡ヶ島を波上に見ることが出来る、然るにこの櫓は明治十三年火災に罹り今日のそれは其後再建したものである。

(新日和山) は遊廓の西北にある、恁は舊日和山の火災後に出来たものであるが夏季夜の散歩地には最も適し常に多くの遊客で賑ふのである、畏くも大正五年皇太子殿下佐渡より御還啓の途上御立ち寄りあらせられ御少憩遊ばされたところがある、丘上には團子茶屋なる茶見世が二軒ある。

(萬代橋) 萬代橋も慥に新潟名勝の一であるその延長四百三十間、其の下を上下する蒸汽、荷船の絶ゆる間もなく港口を見れば帆檣林の如く聳へ角田彌彦の諸峰も雲間に見ることが出来る此處又夏季の納涼地として賑ふのである。

(有明浦) 新潟海岸より五十嵐濱に至る間一帯の地を有明と稱し古來月の名所として知らる渺茫たる日本海の波を隔てゝ眠るが如き佐渡ヶ嶋の彼方に入る秋の月など得も云はれぬ風情がある。

(千本松原) 今は昔の面影なく僅に白山公園内二三の老松に當時を偲ぶのみなるが其地形を案すれば今日白山公園内一帯の地には無数の松蔽鬱と繁茂し其の間に照夜燈を配して行舟に便ならしめたのである、然るに其後再び火災に罹りこれ等老松も大半焼失し或は枯れて今や當時を偲ぶもの極めて少きに至つた。

◆ 舊

蹟

新潟城は三條城主長屋爲景が上杉能房を府内の館に破り越後を平定し天文十一年始めて新潟城を新潟の白山嶋に築いたのである、而して森岡十左衛門なるものをして守らせ後爲景越中に戦死し再び越後亂れ天正六年上杉謙信卒し子景勝嗣ぎ諸將士皆これに服したるも獨り柴田因幡守景勝に叛き新潟城に叔父柴田刑部左衛門

を置いたのであるが遂に景勝の爲めに攻められ天正十五年亡ぶるに至つたのである、城趾は現在の裁判所附近である。

(乗足城趾) 天正九年柴田因幡守、上杉景勝に叛き、城を沼垂に築きて武者善兵衛を置きしが同十五年又景勝の攻むるところとなり十一月下旬新潟城に相次で陥つたのである、城趾は現在の沼垂濱字トンビ山邊であると稱せらる。

(蒲原城趾) 建武二年小國兵庫之介城を築いて一族を置く間もなく野田左衛門次郎頭の爲めに射られて陣没す城趾は現在信濃川中萬代橋下邊であらうか。

(新潟營所) 明治五年十一月現在營所通り二番町に始めて兵營を置く、これ現在營所通りなる町名のある所以で最初は東京鎮臺第一分營第八大隊であつたが後第八第九の二大隊と爲し翌六年四月第八大隊を新發田に七年九大隊を高崎に移したので其の跡は皆現在民家となり當時の面影を思ふものもない。

(關屋の衛關) は現在關屋の町端にあつた明治二年の建設で常にこの關門に衛兵を置き旅客を一々檢し市内を巡視したのである其他横三番町にあつた鐘樓、白山社頭にありし三献茶屋寄居町にあつた六合童なども市内舊々蹟の一であらうか。

◇住吉祭禮と川開き

當市の年中行事中最も殷賑雜踏を極むるは萬代橋の川開きと住吉祭である、執行の時期は例年八月二十二、三日の兩日を以て行はる、其起源に就てはいろいろの沿革もあらうが長らく中絶してゐた住吉祭が再興したのは去る四十二年であつた又川開きも大正三年まで中絶してゐたのを一は市内の繁榮策として復興したので爾來は兩者一時にこれを行ふこととなつた、殊に住吉祭の一層殷賑を見るに至つたのは大正四年からである、同年以來は各町毎に山車、飾物を出してこれが神輿の渡御と共に市中を練り廻るのであるが其雜踏遠近より入り込む見物人で市中は埋没されるを例とする。

◇越後鐵道

沿線の名所舊蹟

越後鐵道株式會社は去る明治四十四年の創立で白山驛より柏崎驛まで全部の開通を見たのは大正二年である更に大正五年に至つて彌彦支線が延長されたのであるが目下は西吉田驛より更に分岐して省線三條驛に通ずる三條支線の工事中である同沿線は頗る名所舊蹟に富んでゐるだけ客は何れも之等の觀光團や彌彦參拜團で繁昌してゐる、就中縣外旅客の是非共足を曳かねばならぬは、彌彦の靈地、戀の岩室、石油の西山、桃の刈羽等であらう。

彌彦神社は國幣中社で人の知る如く本縣第一の名祠である越鐵を西吉田に彌彦線と乗り換へ彌彦驛で下車すれば最う其處は彌彦の靈である、右方は目下工事中大公園正面に仰ぐが即ち彌彦山の秀麗である緣起に就ては又説なきにあらざるも祭神は天香具山命で神武帝に従ひ神國勦建の鴻業を翼賛し奉り功に依り越後の國を賜はり此處に農耕魚撈の業を傳へたのである、この彌彦より東方に約一里卷驛に下車すれば弱二里の山麓に鑛泉で有名な

岩室なる一種の遊園地がある、鑛泉で有名だといふよりは寧ろ女で有名な一種の遊樂地である、戸數は僅に數十戸の一部落であるが舊國道の一要驛として今尙藝妓の如き又三十餘名もゐる、昔の全盛推して知るべきか。

西山油田地、元來本縣は石油の名産地である而して目下最も盛んなのがこの西山油田である、其中謙田は實に本邦石油界の鼻祖たる石坂周造氏の開拓に依り長嶺は日本會社の輕便鑿井機に依つて旺盛の端を開いたものである一時は小會社分立して其の弊も又少なくなかつたが今日に於ては日本、寶田の兩大會社に統一せられたのである。

刈羽の桃、は全國でも有名な桃の産地で其の栽培面積約七十町の多きに達し花時に於ては縣下は勿論縣外より多くの觀桃團體入り込み特に臨時停車場まで出來て非常な賑ひを見るのである結實の眺め又一種の風情ありてこれ又旅客の目を惹くに足る、種類は土用、天津、上海、水密等を主とし産額も數萬の巨額に達す、其他名所舊蹟は頗る多い、地藏堂驛に下車すれば大江山酒吞童子で有名な國上の國

上寺又野積村西古寺の肉身佛避暑地で有名な寺泊町は遊女初君の碑佐藤繼信の碑
さては同郡島田村の妙法寺等一々其起源を見れば歴史上却々面白きものがある。

◇新潟の偉人名士

新潟は従来商業地にして發達し來りたる土地なるが過去數百年に遡れば偉人名士の輩出せしもの決して少なくない就中有名なるは慷慨家竹内式部、義人涌井藤四郎、書家五十嵐浚明である。

■竹内式部 は正徳二年新潟市現在の町九番町東側六軒小路二軒目に生れ享保二年十七八才にして京都に登り徳大寺家に仕へ其の餘暇を以つて苦學し學漸く進むや諸公卿其他勤王の志士と交りて只管皇室の衰頽を嘆き密かに王政の復古を説くこの事遂に幕府の知る處となり捕はれて明和四年十一月二十日八丈嶋へ流さる船中病に冒され三宅嶋に寄港間もなく歿す時に五十六。

■五十嵐浚名 は舊佐野義直なる商人の子なり元祿十三年新潟に生れたるが時既に父はこの世を去りて孤兒たりこれを憐みたる五十嵐五郎兵衛なる人これを養ひ斯くて五十嵐の姓を装ひたるものなり幼にして書を好み書技大に進むや年三十江戸に遊びて狩野良信その他

の大家に學びて遂に猖轉の天地を開いて一家を爲す、彼又孝子として世に對する任俠の士として徳望頗る高し俊明の第二子片原又書を描き寧ろ父俊明以上のもの四郎は英信の子にして享保二年今の本町通り五番町に生る代々商業を營みて業と



古町通り六番町

■石川侃齋 も又書家なり俗稱を龍助と稱し明和元年新潟に生れ家は代々衙吏たり幼にして京都に遊び多くの文人墨客に往來し技は益々進む性清廉寡慾天保十一年七十七にて卒す市内光林寺に葬る。

■涌井藤四郎 祖先は越前の士族にして英信亂を佐野に避けて以來越後の民となれり藤

せしが性飽くまで剛毅、偶々明和四年なりき天下飢饉にて年貢を納むる能はざるや税吏池文右衛門なるもの暴威を振るひ民の苦しむを顧みず督促苛酷を極むこの時藤四郎衆と謀り延期を懇願するも遂に容れられざる爲め坊吏と遂に大衝突を來し市内は殆んど戦亂の巷と化す斯くて其の元兇者と認められし藤四郎は間もなくはれ世人の犠牲となりて斷頭臺の一露と消ゆ年五十この義人の墓は長照寺にありて香花を捧ぐるもの常に多し。

■片山北海 は儒道なり通稱は中藏と稱し享保八年に生れ家は農にして十歳の時人に教へるに四書を以つてすこれに依るも如何に當時の學者たるかを知るべしその後京師に遊び多くの儒者と交り諸侯これを欲せしも職に就かず貧の中にも親に仕へて至孝寛政二年歿す。

伊藤新左衛門、伊藤多右衛門、巖田怒郷、伊藤仁太郎、市郎兵衛、五十嵐俊明、五十嵐片原、池田氏、石川侃齋、石附竹人、原有信、長谷川權之介、朴巖、土肥三、富益齋、富田南里、とよ、虎屋善助、藤左衛門、長九郎、千代、柳月庵、

魯舟岡旭堂、尾張屋勘左衛門、小原屋善七、尾富樸齋、若狹屋常女、涌井藤四郎、岩船屋佐治兵衛、鷺ヶ濱、

片山北海、笠原長四郎、鍵富三作、龜井津平、風間治吉、由之助、よね、吉田定太郎、吉川豈美、田中小稻谷等閑齋、館柳灣、岩橋次郎左衛門、田中克明、田邊忠藏、田邊衣千子、田代蘭香、田卷辰三郎兵衛、玉木大隅、玉木勝良、竹内式部、竹内撲郷、そよ、素撲川太二、佐藤理右衛門、佐野元敬、佐野竹沙、佐野北汀、佐野容堂、齋藤吉右衛



園文忠、坪井良作、中野子徴行田魁庵、雲靈泰禪海、松屋甚右衛門、井上白僊、野登、大井小十郎、大倉雨村、大鹽詢、大嶋謙三郎、活湛、彌兵衛、卷菱湖、松浦久藏、松浦花子、松木まし女、月窓龍鬼庵、藤田鼎、藤田文二、藤井如夢、小泉甚明、小林日昇、興雲、兒嶋つた子、江口善平鐵藏寺井韞德、寺井榮七、荒

[一 其] 物 名 湯 新



踊 盆 湯 新

[二 其] 物 名 湯 新



踊 分 追

門、齋藤喜十郎、齋藤金衛、坂井五郎七、北村七里、立川縫殿佐、三村雄之助、三國屋音藏、松蘿庵風月、白井方行、白井華險、白井和齊、志賀北洋周樸、しげ須崇、清水芳藏、獅子庵梅花、内策日野資徳、檜物屋久兵衛、本宮柳所、清一、慶太郎、鈴木長藏、鈴木俊堂、鈴木彌三吉、高田敬篤、村山新平、無歴庵、梅津孝助、井上文昌、大倉勝庵、窪田柳塘以上本市の今日に到る迄に出でし偉人名士又は市に盡せる功勞者である。

×		×
	×	
×		×
	×	
×		×
	×	
×		+
	×	
×		+
	×	



木德櫻子



大山家勝利



木曾家二三代



富士森吉六



木德菊丸



大崎家小初

[三 其] 物 名 瀉 新



踊 さ け お

[四 其] 物 名 瀉 新



踊 馬 相

新三島家だるま



越中家友丸



三條家園子



新月嶋太郎



歌本藤八



新三嶋寶治



鴨會津家小萬



月廼家兔子



佐藤家しげ



小川家咲彌



春よし君香



新皆川やま子



玉木家小もん



小村家小つね



桂家喜多八



廣木家千代吉



小村家小三



太田家嘉津榮



富田家りつ子



新大坂家秀千代



唐津家かるた



新鹿島家小勝



木徳順子



越中家千代春



歌本梅太郎



新月島五郎



歌々家小光



平田さんぼ



中村家春代



附嶋家節子



千代壽小八千代



新越中家三三子



牛崎家豊子



賀井家はま子



都家福龍



富田家元香



瓢家小雪



新越中家巴



新堀家小糸



新村上家奴



歌本小萩



新鹿嶋家咲子



新櫻家小ぎん



廣木家千代吉



皆川家しづ子



柏家さかえ



中村家米香



相澤家吉次



新北静代



柏家梅香



桐廼家高子



新皆川榮太郎



有明みつ子



伊勢家菊榮



皆川家若丸



秀本かる



春よし千代松



小林家よし



新三嶋家若



唐津家登子



寺島家勝美



秀本菊千代



木曾家一丸



玉家ちやら



都家桃子



梅ヶ枝鶴香



松葉家むつ榮



寺嶋家竹松



桂家玉龍



秀本一春



三嶋家菊太郎



本川秀丸



新櫛勝みね子



新堀家萬吉



村松家豆多



高田家千賀子



吉田家時子



三條家小夜子



遊樂の栞

- ◆一、二、旅館、下宿屋、◆三、料理店、◆四、待合茶屋、
- ◆五、藝妓、◆六、七、貸座敷、娼妓、◆八、九、劇場、
- 活動寫真館、◆十、十一、人寄席、遊技場、◆十二、郷土
- 歌、◆十三、其他……………

◆一、二、旅館、下宿屋

本市に於ける旅館の数は總數九十六、其内主なる旅館は左の如くであるが、就中篠田旅館は各宮殿下其他高貴の御旅館として御定用の榮を受けし事屢々あるものである、又大正十年中本市へ投宿したる延人員は十六萬六千百九十人に達し

てゐる。

篠田旅館	礎町上一ノ丁	小甚旅館	上大川前通五
室長旅館	東堀前通六	大野屋支店	古町通六
大野屋別館	古町通五	菊池屋旅館	西堀通四
俵屋	西堀通四	くし清	古町通六
榮江館	西堀通五	近江屋	下大川前通二
篠田支店	新潟驛前	太田屋	本町通八
櫻井旅館	西堀通五	福島屋	礎町二ノ丁
小川旅館	下大川前通四	播磨屋	營所通一
池上旅館	古町通五	能登屋	上大川前通六
畑新館	古町通七	西山旅館	學校町通二
大谷旅館	下大川前通三	大川屋	礎町一ノ丁
大野屋	白山浦一丁目	越川旅館	上大川前通六

古川家 礎町五ノ丁 増田屋 新潟驛前
 源川旅館 學校町通一 俵屋支店 新潟驛前
 北越旅館 西堀前通四 五泉屋 東堀前通五
 田中屋 礎町二ノ丁 木羽平 礎町一ノ丁
 田上屋 古町一番町

以上は旅館中の比較的優れたもののみで、此内一部分の旅人宿業者は新潟旅人宿同業組合と稱するを組織し事務所を菊池屋事牛腸定吉方に設置してある此外下宿業は百十戸、木賃宿營業は三戸である。

三、料理店

新潟へ足跡を印せらるゝ人士は必ずや一度は花柳界の氣分に觸られる様である、料理屋では鍋茶屋、行形亭の二亭は全國中有名の部に數へられてゐる事は、茲に深く説明するまでもない様である、以下各料理店と雖も流石往昔より色の街とし

て許されてゐる丈けあつて相當繁昌してゐる。

〔鍋茶屋〕 古町の所謂(東堀通八番町)五六の粹な格子戸の竝んでゐる中央に高樓を構てゐる曾て故尾崎紅葉山人が屢々鍋茶屋なる文字を著作物へ書かれしは此旗亭である。〔行形亭〕 西大畑通に在り天然の庭園を築き古松鬱蒼たる中に砂丘を負ふてゐるなどは頗る詩的である、同亭より行く事二三町にして海濱に出づるを以て夏季三伏の候などは清涼なる事他に到底需られない。〔鳥國〕 東堀通八番町新道にあり、前記兩店に次ぐ部類に入るべきか、鳥料理を以て名を成してゐる。〔生粹〕 上大川前通五番町。〔大嶋亭〕 東堀通九番町、近來大いに發展し來たれるは事實なり。〔瓢亭〕 東堀通八番町。〔金子樓〕 全町、往年の大火災後面目を改め顧客又増加せり。〔東京亭〕 古町通九番町。〔高山樓〕 東堀通九番町。〔三貞〕 古町通七番町。〔新葉〕 全。〔あたらしや〕 古町通六番町(そばや)。〔當月樓〕 住吉町。〔有明〕 古町通九番町東新道。〔新巴家〕 古町通九番町西新道。〔釜茶屋〕 東堀通九番町東道。〔福富亭〕

古町通九番町全。(鶴善樓) 沼垂町芳原。(かね清) 全町横町

〔西洋料理店〕

〔イタリア軒〕 西洋料理店では設備と云へ調理と云へ、新潟での第一である、西堀通七番町に在りて撞球場の設備あり。〔小黑館〕 古町通八番町にして昨今凡てに於て發達して來たのである、撞球場の設けあり。〔幾野館〕 本町通十三番町の遊廓を前に控へて三層樓の建物あである、昨今の小黑館と並び稱せられてゐる。〔開養館〕 古町通五番町。〔ポーロ軒〕 營所通一番町(新東仲通)。〔阿部5軒〕 横門前。〔長江亭〕 白山公園内。ミルクホール式では古町通五番町に力行軒、古町通八番町新道にバー花月がある其他ミルクホール式のバーは市内到る所に在る。

◆四、待合茶屋

新潟には遊客が待合茶屋を應用する傾向が近來著しく多くなつて來たのである、

一時待合茶屋營業者が簇出する爲め惹いて風紀、衛生等の方面に及ぼす悪影響を慮り、縣令を以て現在の營業數より以上に増加せしめない方針を執つて其旨制限されて有つたが大正六年三月夫を廢し規則に據つて差支なき開業出願者は許可される事に變更された、勢ひ此後に於ける待合茶屋は寧ろ料理屋以上に繁昌したが現在は所轄新潟警察署にては増加せしめぬ方針を執つてゐる、現在待合茶屋の席料は一室凡て五圓前後であるが其他飲食費は遊客のお好み次第である之とて決して不法の價格を請求する様の事は無いが、料理店で飲食するよりは比較的高價に上るのは仕出し料理であるから覺悟の前でなければ成らぬ、之は新潟の待合茶屋のみを改めて説明するも及ばない、現在の待合茶屋は多く古街の七、八、九番町の東、西兩新道に散在して摺硝子の障子で蔽ひし電氣の軒燈から淡い光線が洩れてゐる、待合茶屋の屋號と所在地は。

田川家 古町通八東新道 初音 古町通八東新道
 近江家 古町通八東新道 船 古町通八東新道

千鳥	古町通八東新道	小藤	古町通八東新道
若松	古町通八東新道	玉家	古町通八東新道
おとわ	東堀通九東新道	敷嶋	東堀通九東新道
音羽	東堀通九東新道	品川	東堀通九東新道
二葉	西堀通八番町	紅梅	古町通九番町
喜久春	古町通九番町	須磨	古町通九番町
大和	古町通九東新道	きばらし	古町通九東新道
音羽	古町通九東新道	東雲	古町通八西新道
喜久本	古町通九東新町	眞砂家	古町通八西新道
かすみ	西堀前九西新道	彌生	西堀前八番町
皆川家	東堀通八東新道	春日井	西堀前八西新道
濱廻家	西堀前廻九番町	花月	西堀六新東仲通
來馴亭	古町通九東新道	立花家	西堀前通九番町

松 新 葉 古町通七西新道 藤 本 古町通七東新道
 浦 嶋 西堀前通九番町 瓢 家 古町通九西新道

◆五、藝 妓

新潟の藝妓に就ては可成各地遠來人士に印象を與へてゐる、天然の所謂雪の肌は到底各地藝妓の求むるを許されぬ處がある過去に於て我新潟美人を最愛の妻とした中央政界の名士三軍を叱咤する將軍も可成數多い、舟江の里の昔より只で返さぬ色の街その藝妓は二個所に在つて最も多數は

◆新潟上藝妓組合 (事務所古町通八番町)

組合の機關としては組合長の外に會計員二名評議員十二名及組合區域全体を四區に分ちて一區毎に一名宛の區長を置いて庶務其他雜件の處理に使してゐる。此組合に所屬してゐる藝妓一本藝妓二百八十七人、半玉七人は所謂古町藝者であつて古町通八、九番町及東堀通八、九番町、西堀前通八、九番町の東、西兩新道

と唱ひる場所に巢を作つてゐる組合の事務所に架設して置く電話番号が十三番なるの故を以て通稱事務所を呼ぶに十三番と稱してゐる次に新潟の花柳界の雛妓即ち振袖藝妓は滿十二歳以上は半藝と稱し藝代及賦課月税も一本藝妓の半額を申受け又は納入してゐるが同じ振袖藝妓と雖も滿十四歳以上振袖、留袖を問はず一本となるのである

◆新潟藝妓組合

である事は勿論である。



(廓遊)町番四十通町本

藝 妓 五十三人

此組合に屬する藝妓は東京に於ける吉原藝妓であつて年増の色氣なしでなければ成らぬから勢振袖妓の成功せぬ場所稼業圈内は遊廓の朱引地内で有から出入する家は貸座敷が主である、又其數も僅少である。併し藝の達者でなければならぬ事は遊廓藝妓に附帶せる條件

沼垂町

藝妓 六十四人

同所に稼業する藝妓は西新潟より格段に容色に於ても、品位に於ても、衣裳、持物に於ても下位にあるが近年發展の兆がある。

之ら藝妓の藝代（線香代）は二十分時間を一本として金二十五錢であるが、最初お座敷へ姿を現はすと同時に二本分の藝代金五拾錢は必ず支拂はなければ成らぬ最初の二本以後は十分毎に一本宛を増して行く譯と成るのである、又仕舞ひ切りと成ると二時間半で十二本の藝代で仕舞ひ切りの口がかゝれば、其時間中は他から口がかかつても行かないのである、其代り新潟藝妓には頭纏を要しない、併し御心附きの遊客は然べく料理店に命するか又は直接に與ふ例に成つてゐる。（但沼垂町は低額の藝代である。）

[10]

六、七、貸座敷と娼妓

新潟の貸座敷と娼妓を紹介するに際し之を詳細に説明すると云ふ事は紙數の自由を有しない爲めに許されぬが、舟江の里と稱した初め頃より、全國に『新潟女郎衆』と其名を謳はれてゐたのであるが、其昔は藝と色を賣る婦女を『歌舞遊女』と云へ、色のみを鬻ぐを『子供衆』と唱ひてゐた、之が起源は夫なき女の娼と稱せしものが夫れであると言傳へられてゐる。所謂新潟の八百八嬢と呼ぶ語が夫である、然るに明治十五年官令を以て總ての宴席に侍る婦女を類別して藝者と娼妓に分ち、二枚鑑札の歌舞遊女は廢せられて終つたのである、遊廓の位置も數度の火災と時代の要求とで幾度か變遷して明治三十一年七月現今の場所を朱引區域と定められたのである、大正十一年十一月末現在の貸座敷營業者數は張店五十八戸仕舞店が三十四戸で計九十二戸有るが仕舞店の内にも娼妓を抱ひず、一種の待合式に登樓客がある毎に他の貸座敷より呼び寄せる無娼妓の貸座敷が二十戸ある、

[11]

次の統計は新潟遊廓の状態を語つてゐる。

年度別	一ケ年中登樓客	娼妓數	貸座敷數	遊興費並飲食費
七年
八年
九年
十年	一四六、八六四人	五〇五人	九二戸	四〇九、四八二、六九〇
貸座敷數	九十二戸	娼妓數	五百〇五人	

現在の組織は『新潟貸座敷事務所』を横門前の即ち朱引地内に設け取締、副取締評議員の各役員は樓主中より二ケ年の任期で就任し一切の事務を執つて以て貸座敷業者の營業上に於ける統一を計つてゐる。前掲の表は大正十年中及最近四月中に於ける統計の状況である娼妓の揚代金は玉一本代が金四十錢で一夜を五本とし金參圓五拾錢半夜は宵より十二時迄を金參圓十二時以後朝まで金貳圓五拾錢としてゐる。遊興の行方方に依つては至極安値に其氣分を味合ふ事が出来るが、飛つ

切りの騒ぎをしたり纏頭を撒いたりする者は此限りに非ずである、張店は本町通十四番町、常盤町と大正五年より横門前に數戸の張店が現はれたから張店は此三ヶ町であつて、他は凡て仕舞店である、朱引區域は四ツ谷町一丁目、東堀通十三番町、本町通十四番町、寄附町、西受地町、横七番町二丁目（上記の二ヶ町内を併稱して常盤町と呼ぶ）である。

八、九、劇場、活動寫眞館

新潟市の演藝に對する鑑賞眼は近來甚だしく向上して、演劇を始め其他の興行物も、所謂従來の田舎廻はりでは満足しなくなつた、之は一に交通の便が東京新潟間を近よらしめた結果に外ならぬが、劇場設備としては現に大鶴座、新潟劇場の二個所である

◆大鶴座（古町九番町） 大勝興行部大竹竹三郎氏の個人所有であるが外廓は悉く煉瓦造り、内部は殆ど檜材を以て飾られたる清麗なものである、收容人員千五百

であるが舞臺裝置、電光設備、音律の明透など地方には見らぬ程に完備してゐる
 大正十年七月尾上梅幸、松本幸四郎一座で開場式を挙げ、年中興行を續けてゐる
 活動常設大竹座、湊座も此の大竹氏の所有である。

◆新潟劇場(古町坂内小路) 大正九年六月株式組織に依つて建設されたものであるが、其容積の大なるは三都以外に多く其比を見ない、洋式の壯麗を極はめ尾上菊五郎を以て初開場をなしたる以來、絶えず諸種の興行を續けてゐる、専務取締は加藤新三郎氏である。

◆活動常設 各地に活動寫眞の勃興したる頃、猶ほ一の常設館なかりし新潟も、大正三年四月、大勝興行部の大竹氏が當時劇場たりし大竹座を決然活動常設と變更したる以來、常設館は續々として建設され、今や七館を數ふるに至つた、大竹座は凡ての設備に於いて、全國有數の活動館とされてゐる。

館名	持主	設立月日	場所
大竹座	大竹竹三郎	大正三年四月一日	古町通八番町

港座	全	大正六年十二月	沼垂町
電気館	新潟活動寫眞株式會社	大正三年四月廿八日	古町通六番町
金比羅館	新潟起業株式會社	全 年六月一日	西廐嶋町
新潟館	合資組織代表佐藤代七	大正四年二月五日	横七番町
丸山館	丸山八太郎	大正七年八月	古町通十一
白山館	産業資金會社	大正八年七月	白山浦

◆十、十一、人寄席、遊技場

人寄席は左の五個所である。

福住館	西廐嶋町	大黒亭	古町通三番町
松本亭	西廐島町	本五座	西廐嶋町
大川亭	上大川前通五番町		

遊技場としては現在十一個所であるが、内撞球場としては三越亭醫學町の一個所

である。

大弓場としては。

館名	流名	場所	館名	流名	場所
鎮西館	尊流	西堀通三	演武館	日置流	四ッ谷町
勇武館	逸見流	東堀通十三	中正會	竹林流	學校町三
尙武館	日置流	見方町	盛武館	大和流	古町通五
新潟引術會	不詳	本町通九		日置流	

九ヶ所で一タチ二錢より五錢位までの使用料である、圍碁將棋稽古所は二三ヶ所あるが、取立て、紹介する程でないから略す事とする。

◆十二、郷土歌

郷土歌としては市教育會に於て市内各新聞記者及び教育家等よりも編纂委員を囑託して第一回及第二回到懸賞募集したものが、次の如くであるが卑俗のものを避

けたのであるから、一般に普及せしむるには一寸至難であつた。然るに昨今衆人の迎ふ處と成つてたのに徴して尙は一昨年第三回の募集を行ひたるが應募入選せるものは左の通りである。

◆追分

右に粟生嶋 左に佐渡の 中をおぬしの 船がゆく……………
 權をゆるめて 八り來る白帆 招ぐ船江の 糸柳……………
 櫓のおともゆるく きこえて船江の春は 霞む粟生嶋 ねむる佐渡……………
 匂ふ櫻に 媚く柳 戀し船江の 春の月……………
 ぬしの入舟 つい待ちかねて またものぼるよ 日和山……………
 投ぐる 纜 柳に結び 船と新瀨は 解けぬ縁……………
 吹くも嬉しや みゆきが岡に 千代のためしの 松の風……………

新潟をあとに 出てゆくあの船唄を にくやへだてる なみのおと……
夢の様なる 景色を眺め 主とうつゝの 日和山……

盆歌

新潟砂山 小松をそだて 鶴をよびませう 女夫づる……
樽をたふけば 佐渡までひづく 夏は寄居の 濱踊……
碇下せば 早や氣が勇む 花の新潟に 樽の音……
新潟白山 花時よりも 盆の花笠 なほ見事……
松の露ちる 常磐が岡に 昔忍ぶか 虫も鳴く……
濡れてしをく 雨ふる町を 燕可愛や 鳴いてゆく……
鰯曳く網 見ながら一寸 主と寄居の 濱の茶屋……

前とうしろに 海川ひかへ 涼し新潟は 扇形……
梅も植えませう 櫻も咲かせう 花の新潟 見にござれ……

都々逸

春は白山 櫻にあけて きくもゆかしい 鈴のおと……
浮ぶ白帆を 模様に見せて 帯と流るゝ 信濃川……
橋と柳の 舟江の街を こんでゆきかふ 濡れ燕……
櫻花さきや 柳は烟る 新潟獺になる うたになる……
石の玉橋 白山様へ かたい願ひを ふむ百度……
鷗浮くやうな 白帆がみえて 眉をひいたる 佐渡が島……
簾あげれば 彌彦のやまよ 信濃川原の すぐみぶね……

なろか素通り 新潟のまちを 見やれ柳が あれ招ぐ……………
 新潟港の 入船出船 戀のおもにも 積む船頭……………
 名残をしんで 新潟をうけりや 船もすねてか 帆がきかぬ……………

◆十三、其 他

遊藝師匠としては十人で主なるものは左の如くであるが遊藝稼人は十三人である [20]

▲舞 踊▼ 市山七十世、藤間 小藤、市山七十菊
 ▲鳴 物▼ 望月 太三 ▲清 元▼ 清元延葉吉
 ▲淨 瑠 璃▼ 豊竹氏之助、竹本 延昇、
 ▲常 盤 津▼ 鍋田 佳兒 ▲長 唄▼ 村上 星

客はみな尻に帆かけて来るらん
 元船のつく新潟の茶屋
 柳あり橋あり杖のとめどころ 降 雨 庵

◆(新潟の盆唄)◆

◆新潟戀しや白山様の……………松が見えますほのぐと
 ◆新潟砂山米ならよかる……………可愛船頭衆に積ませたい
 ◆花の新潟に渡しがなくば……………一夜通ひもらくにしようが
 「萬代橋の架設前之を唄ひたるもの」

三井物産株式會社

炭 石

特約販賣

島本商店

新潟市秣川岸通二丁目

電話一八〇一 番一八〇一

池貝發動機
北陸一手販賣
農業用
石油發動機
嶋本式力織機
諸機械製作

島本鐵工所

新潟市東入船町河岸

電話三四三番

大正十一年十一月三十日印刷
大正十一年十二月廿五日發行

〔定價金六十錢〕

發行人兼 編纂人 島山重太郎

印刷者 江川豐治

新潟市古町通壹番町

印刷所 新潟日曜新聞社

新潟市西堀前通七番町
電話一四〇五番

鐵筋コンクリート工事
請負並設計監督

Ⓑ

鐵筋コンクリート工業株式會社

電話九六〇番

△新潟第一魚市場▽

鮮魚及魚介製造品
海產物受託販賣業

新潟市本町通十一番町



株式會社

新潟鮮魚問屋

電話二二三番・七七番發電略號〔ウラ〕

▲明治三十七年創立
▲資本金 五万圓

▲新潟創始以來約二百五十年繼承したる老舗也
▲積立金 八万餘圓

△北陸第一問屋▽

米穀肥料委託問屋

新潟市本町通十二番町

海陸運輸業
石山治四郎本店
味噌製造業

電信略號 イ
電話 三三三
三十四番
三五八
一五四番

新潟市上大川前通八番町

石塚齒科病院

長岡市渡里町

石塚齒科分院

電話 九三一
一〇四番

石油一手販賣

各石油鑛油輕油空罐
石油函材料製板販賣

委託賣買廻船問屋
汽船海運丸扱店

松 佐藤代七商店

新潟市船場町(電話八六八番)



新鮮バター
純良牛乳

新潟市白山浦壹丁目

新潟牛乳株式会社

電話 八八〇番

株式會社

新潟米穀株式取引所

新潟市上大川前通十番町
事務所用電話 一六二番
仲買人用電話 一六一番
電話 一五九番

店理代社會式株業鑛井村

石 炭

回 漕 部
保 險 部
陸 送 部
石 炭 部

新潟市上大川前通十一番町

飯塚商店

電話長二三番

信越線沼垂驛前

公認 陸送部

電話一九五六番

帝國實業貯蓄銀行

新 潟 總 代 理 店
白 根 代 理 店
佐 賀 代 理 店
其 他 各 地 取 扱 店



株式會社

長岡銀行新潟支店

新潟市古町通六番町
電話六五七番



新瀧市本町通七番町 電話(四五番)四〇四番
株式會社 新瀧貯蓄銀行

出張所
支店
代理店

東中通 古町通五番町 本町通十三番町 沼垂上三ノ丁
新發田 鹽野町 關 平 岩船
村上 葛上 塚 乙船
加治 須ヶ崎 菅岡 築地 林
小松 白根 村 津川 地
地蔵堂 赤塚 卷田 龜田
出雲崎 三條 加茂 寺泊 魚川
兩津 柏崎 直江 穂 河原田
相川 小島 新穂 河原田 畑野
松ヶ崎 白根 村 津川 地
加治 須ヶ崎 菅岡 築地 林
村上 葛上 塚 乙船
新發田 鹽野町 關 平 岩船
東中通 古町通五番町 本町通十三番町 沼垂上三ノ丁

資本金 千貳百五萬五千圓
積立繰越金 貳百五拾參萬參千圓餘

(大正十一年六月末現在)

新瀧市

明治六年
創立



株式會社

第四銀行

頭取 白勢春三

支店

市內 沼垂町 古條町 葛塚水原村 上
縣內 新發田 中 小須戶 卷 燕
縣外 東京 若松

資本金 壹千万圓(全額拂込済)
 積立金 貳百貳拾万圓

株式會社 **豐國銀行**

新潟市本町通九番町

新潟支店

頭取
 支店監督
 商議員
 支店長

電話 二六九番
 生田定之
 渡邊三左門
 田卷堅太郎
 三輪勉一

本店 長岡市表町三ノ町

創立 明治十一年

資本金 壹千万圓
 積立金 九拾九万五千圓

株式會社 **六十九銀行**

新潟支店

上大川前通八番町

電話 六一五九

新潟市本町通七番町



不動貯金銀行新潟支店

電話 八〇六番

日本會社
 株式會社
 酸肥料
 日星肥料
 住友肥料

特約販賣店
 縣下販賣代理店

新潟市上大川前通八番町

加藤支店

電話 九八〇番
 振替長野二四二番
 電話略(カト)又(〇カ)

印刷

は

新潟日曜新聞社

新潟市西堀前通七番町
電話一四〇五番

新潟水力電気株式会社

新潟市上大川前通七番町
電話園五二一

電気器具販賣所

新潟市古町八番町
電話一三九七番

石炭、コークス、火山灰
 ビツチ、赤煉瓦 販賣業
 磐城セメント株式會社特約販賣店
 海陸運送並ニ商品委託販賣業
 日本郵船株式會社代理店
 東京海上火災保險株式會社代理店
 明治火災保險株式會社代理店
 愛國生命保險株式會社代理店
 株式會社内國貯金銀行代理店

新瀉市下大川前通六ノ丁
 合資會社

濱商會

電話 長一三九番
 振替金澤三五九二番

石 油
 機 械 油
 製 造 販 賣
 木 材 業

株式會社

山岸商會

新瀉市見方町(電話長三五五・七〇三)
 大阪市西區鞠南通二丁目
 大阪出張所
 電話土佐堀三五六・長三五七
 新瀉市沼垂町(電話六四八)
 油工場

新瀉市船場町壹丁目



牧木回漕部

電話 一八八一三番
 電略 (マキ) 又ハ(マ)

株式會社 新潟興業貯蓄銀行



資本金五百萬圓

專取 締役 務
同同同 監同同同同同同同同
查役

齋藤 齋藤 伊藤 中山 中山 齋藤 齋藤 齋藤
齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤
齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤
齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤

▲支店▼
古市町支店(五番町)
學支店(二番町)
本町支店(十三番町)
新發田支店(中町)
▲代理店▼
沼垂 新津
白根 東京
內野 卷松
酒屋 水村
中條 水原
松野尾
安田

▲本店▼
新潟市大川前通一〇番
電話一八四〇番

洋酒 新潟市古町通六番町
味方利平商店
電話三〇一番

履物卸商 新潟市上大川前通六番町
味方履物部
電話一五五八番

下駄製造 新潟市稻荷町
味方木工部
電話四百十三番

和洋

紙紙
卸商
新潟市本町通四番町

山内忠次紙店

電話 五百一
番
振替東京 一一八二四番

新潟市緑町

新潟解曳船株式會社

電話

本番 〇二二番
本番 一三三番
大本番 二二六番
大本番 二二六番
大本番 四六二番

本番 〇二二番
本番 一三三番
大本番 二二六番
大本番 二二六番
大本番 四六二番

電信略號
振替貯金口座
扶桑海上火災保險株式會社代理店

29
202

新 鴻 第 一 之 娛 樂 場 !!

大のり興行部

座主 大竹竹三郎

活動 常設

大 竹 座

電話七百七番

劇場

大 鶴 座

電話九百十番

劇場

港 座

電話七百六番

株式 會社

新潟市上大川前通三番町

同 藤 田 商 店
製 材 工 場

電話六百四十三番

終

◆權威ある北陸第一の週刊新聞

新潟日報新聞

◆一讀痛快無比、然も趣味豊富

定価一月廿五錢

新潟日報新聞社

電話一四〇五番